
新型コロナウイルスオミクロン株に係る 罹患後症状(後遺症)実態調査に関する報告

山形県健康福祉部
コロナ収束総合企画課

令和4年12月

目次

調査の概要について	2	3	コロナ罹患時の症状の程度について	20
		4	コロナ後遺症の症状について	21
I 県内医療機関を対象とした調査結果		5	社会生活への影響について	22
〔令和4年6月公表調査結果と令和4年12月公表調査結果の比較〕		6	症状別の社会生活への影響について	23
1 性別について	4	7	年代別の社会生活への影響について	24
2 年代について	5	8	社会生活へ影響があった方の年代別について	25
3 コロナ後遺症の症状の数について	6	9	社会生活へ影響があった方の影響の程度について	26
4 コロナ後遺症の症状について	7	10	社会生活へ影響があった方の症状について	27
5 コロナ罹患時の症状の程度について	8	11	社会生活へ影響があった方の症状の継続期間について	28
6 医療機関別の診療状況について	9	12	社会生活へ影響があった方の受診状況について	29
7 コロナ後遺症の継続期間について	10	13	社会生活へ影響があった方の症状別受診状況について	30
8 主な症状（倦怠感・咳）の継続期間について	11	14	ワクチン接種と社会生活への影響について	31
9 年代別のコロナ後遺症の継続期間について	12	15	コロナ後遺症診療可能診療所等の認知度について	32
10 罹患時症状の程度別の継続期間について	13	16	県民向け調査結果について	33
11 治療中の患者について	14			
12 ワクチン接種について	15	III フォローアップ調査結果		
13 6月公表調査と12月公表調査の比較結果について	16	1	治療の継続状況について	35
		2	治療中の方の性別及び罹患時の症状の程度について	36
II 県民を対象とした調査結果		3	治療中の方の症状について	37
1 性別、年代について	18	4	フォローアップ調査の結果について	38
2 コロナ後遺症の症状の数について	19	IV 今後の対応		39

調査の概要について

1 目的

本県におけるオミクロン株の罹患後症状（以下、後遺症）や継続期間等について、その状況を明らかにするとともに、6月に公表した実態調査のフォローアップ調査により、症状の変化や継続状況を把握する。調査結果を踏まえコロナ後遺症に係る相談・診療体制の更なる充実につなげる。

2 調査期間

令和4年11月7日（月）～11月24日（木）

3 調査方法

- 【1】 県内医療機関から後遺症で受診している方の状況についてメールで回答
- 【2】 県ホームページから対象となる方が直接回答
- 【3】 6月に公表した実態調査の「フォローアップ調査」として、症例報告があった医療機関から、その後の状況についてメールで回答

4 調査対象者

- 【1】 【2】 オミクロン株による感染拡大以降（令和4年1月以降）から9月24日までに新型コロナウイルス感染症に罹患した方
- 【3】 6月に公表した実態調査で症例報告があった方

5 回答

- 【1】 137医療機関（うち20医療機関から症例報告58人）
- 【2】 県ホームページから直接回答があったうち、有効回答数249人
- 【3】 16医療機関（症例報告75人）

6 留意事項

当該調査結果は、調査対象のうち回答があったものを集計等したものであり、また、【2】は、医師の診断によらない対象者の自覚症状に基づくものであることから、実際の感染者の状況と回答者の性別や年齢構成に偏りが生じている可能性がある。

【参考】 新型コロナウイルス感染症による罹患後症状とは
新型コロナウイルスに罹患した人に見られ、少なくとも2カ月以上持続し、また、他の疾患による症状として説明がつかないもの。
症状には、倦怠感、息切れ、思考力や記憶への影響などがある。
(厚生労働省 新型コロナウイルス感染症診療の手引き（別冊 罹患後症状のマネジメントより）)

I 医療機関を対象とした調査結果

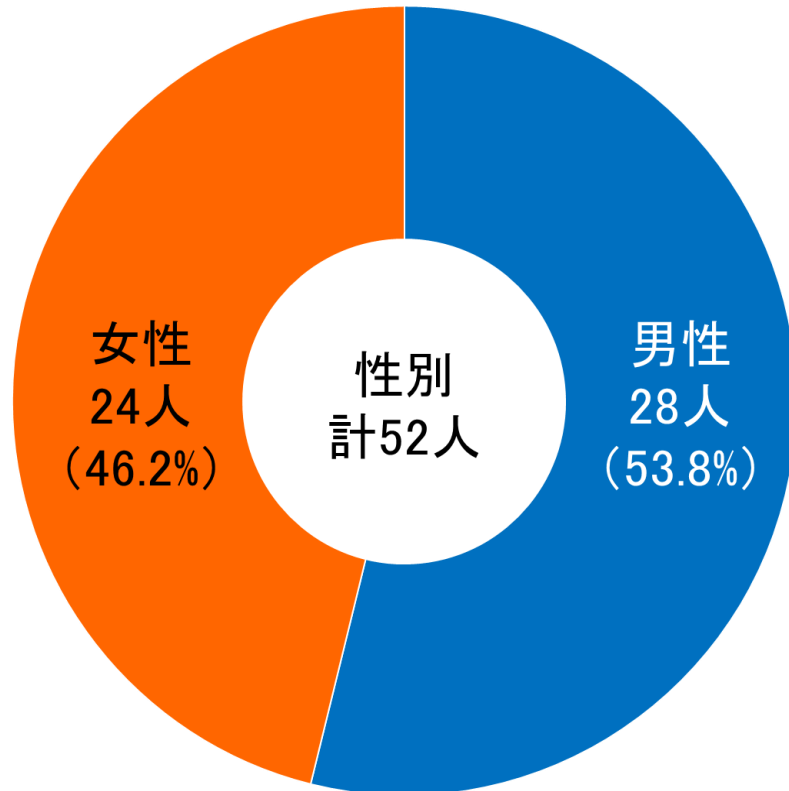
〔令和4年6月公表調査結果と令和4年12月公表調査結果の比較〕

令和4年6月に公表した新型コロナウイルス感染症罹患後症状（後遺症）実態調査において、報告があった患者数75人のうち、コロナ罹患後2か月未満の方23人を除いた52名と、12月実態調査時点において、報告があった58名の比較を行ったもの

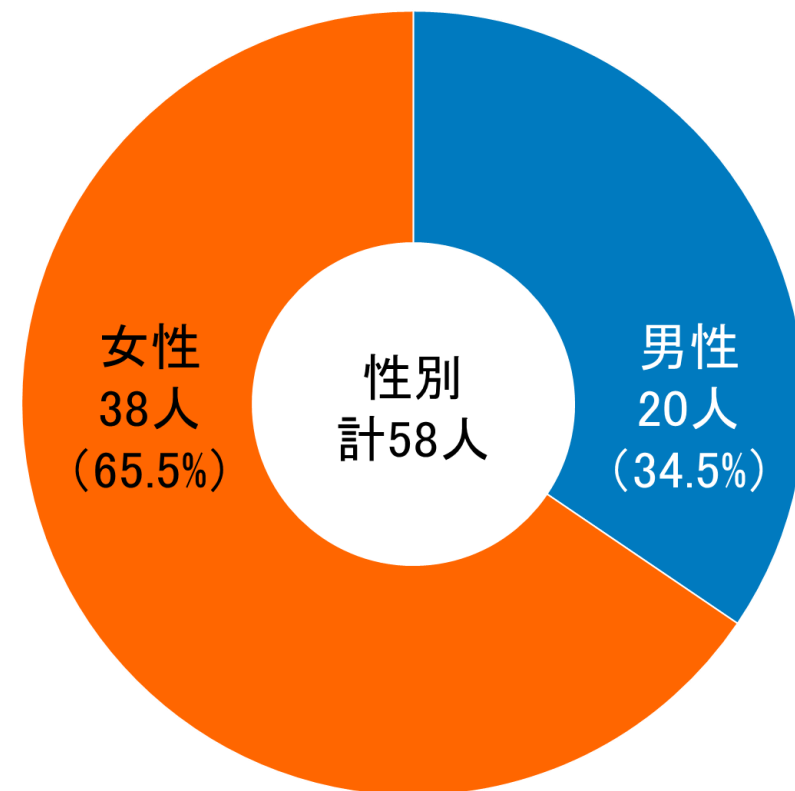
1 性別について

- ・ 12月公表調査は、6月公表調査と比較すると女性の割合が2割程度増加していた。

6月公表調査



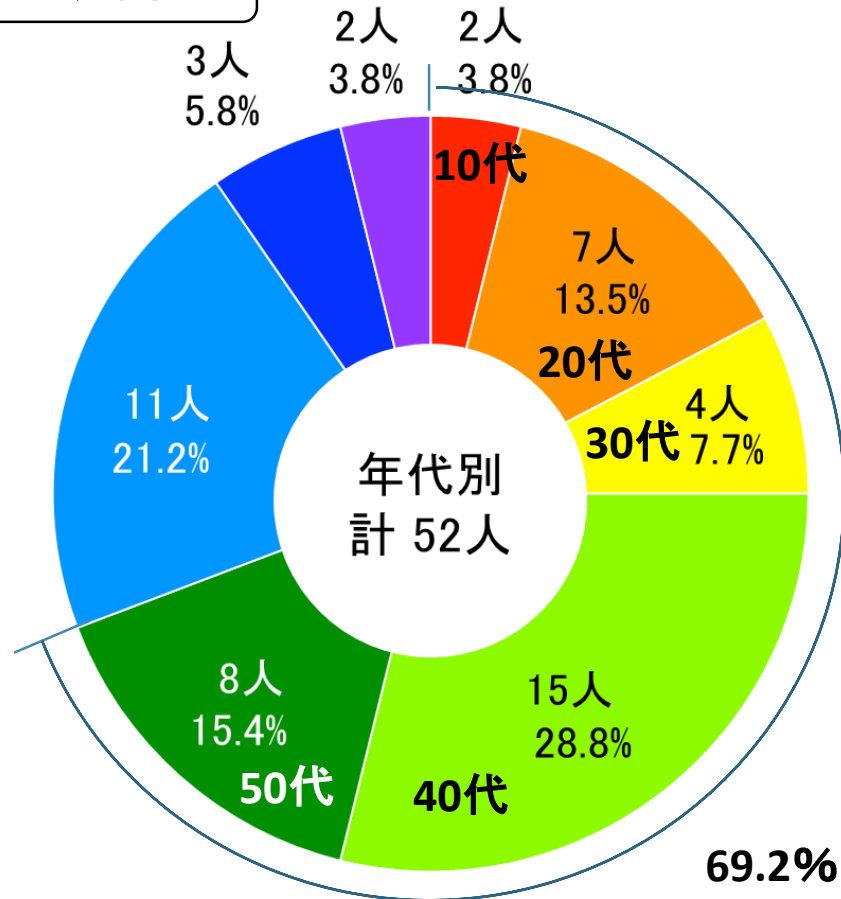
12月公表調査



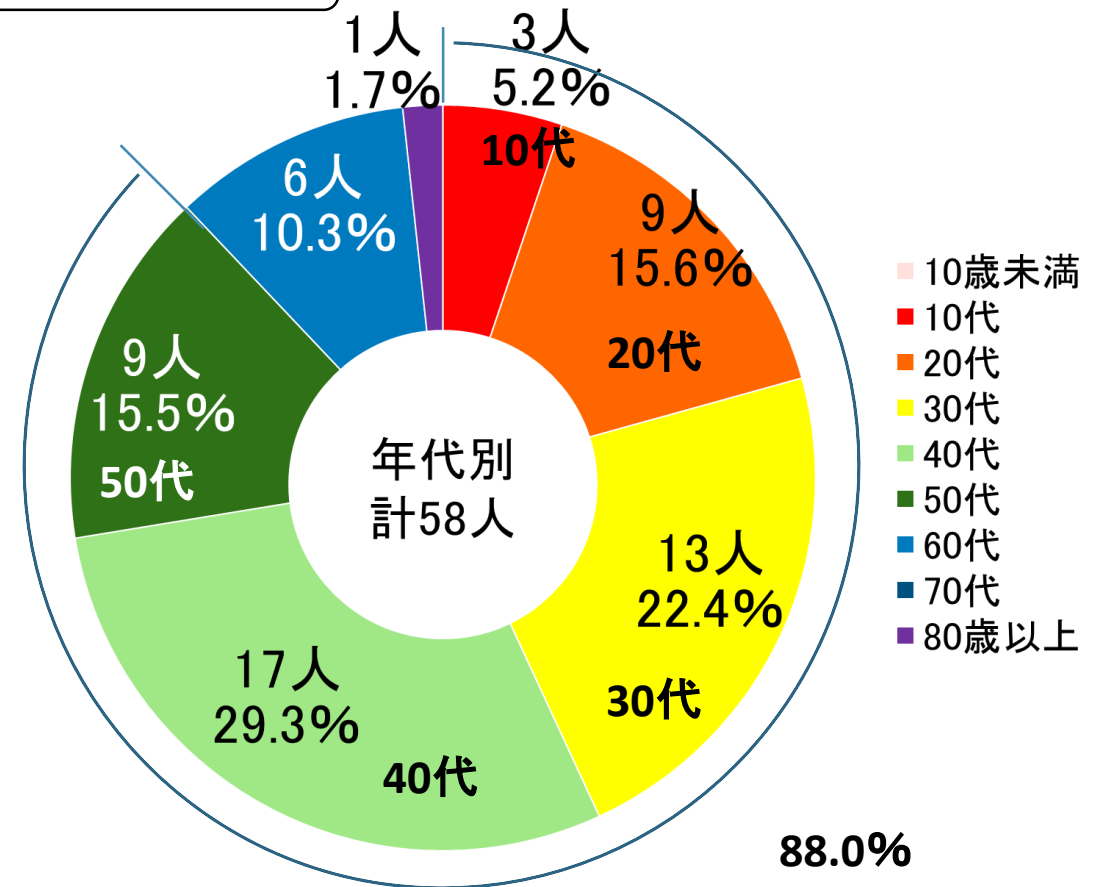
2 年代について

- 40代が29%と最も多く、学業や仕事を持つ世代の10代から50代の割合は、6月公表調査69%、12月公表調査時には88%となり2割程度増加していた。

6月公表調査



12月公表調査



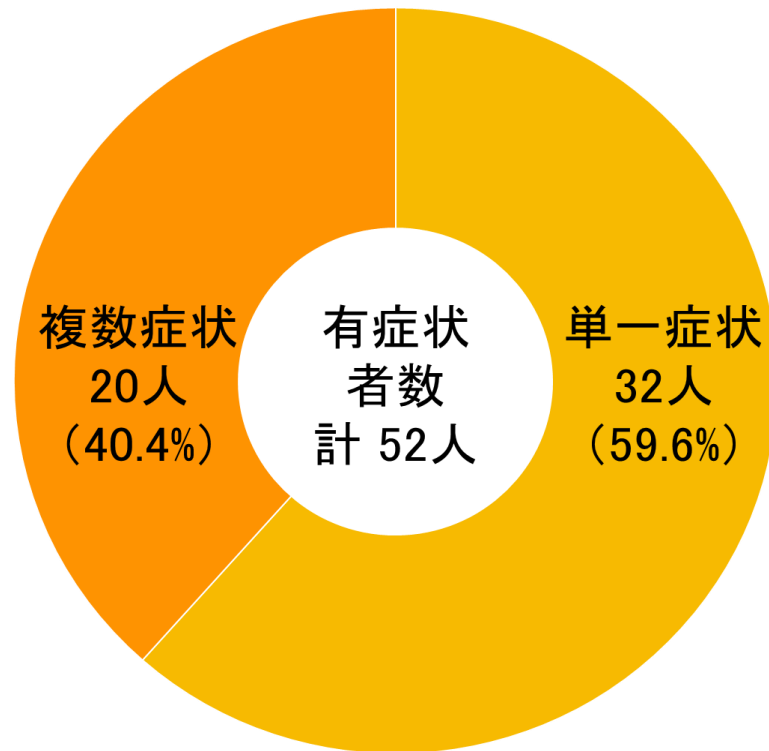
10歳未満
10代
20代
30代
40代
50代
60代
70代
80歳以上

10歳未満
10代
20代
30代
40代
50代
60代
70代
80歳以上

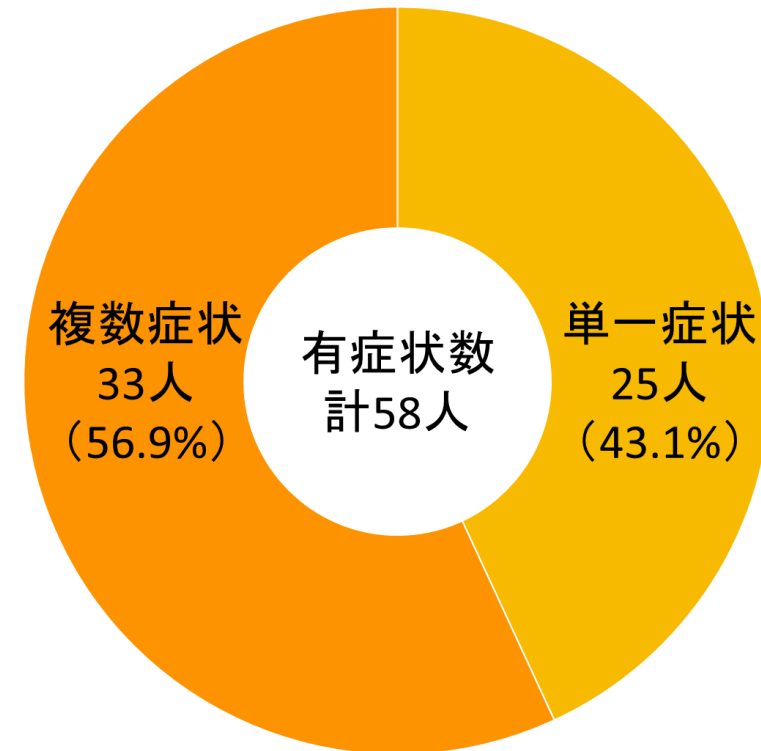
3 コロナ後遺症の症状の数について

- ・複数症状の割合は、6月公表調査時が40%、12月公表調査時には56%となり2割程度増加していた。

6月公表調査

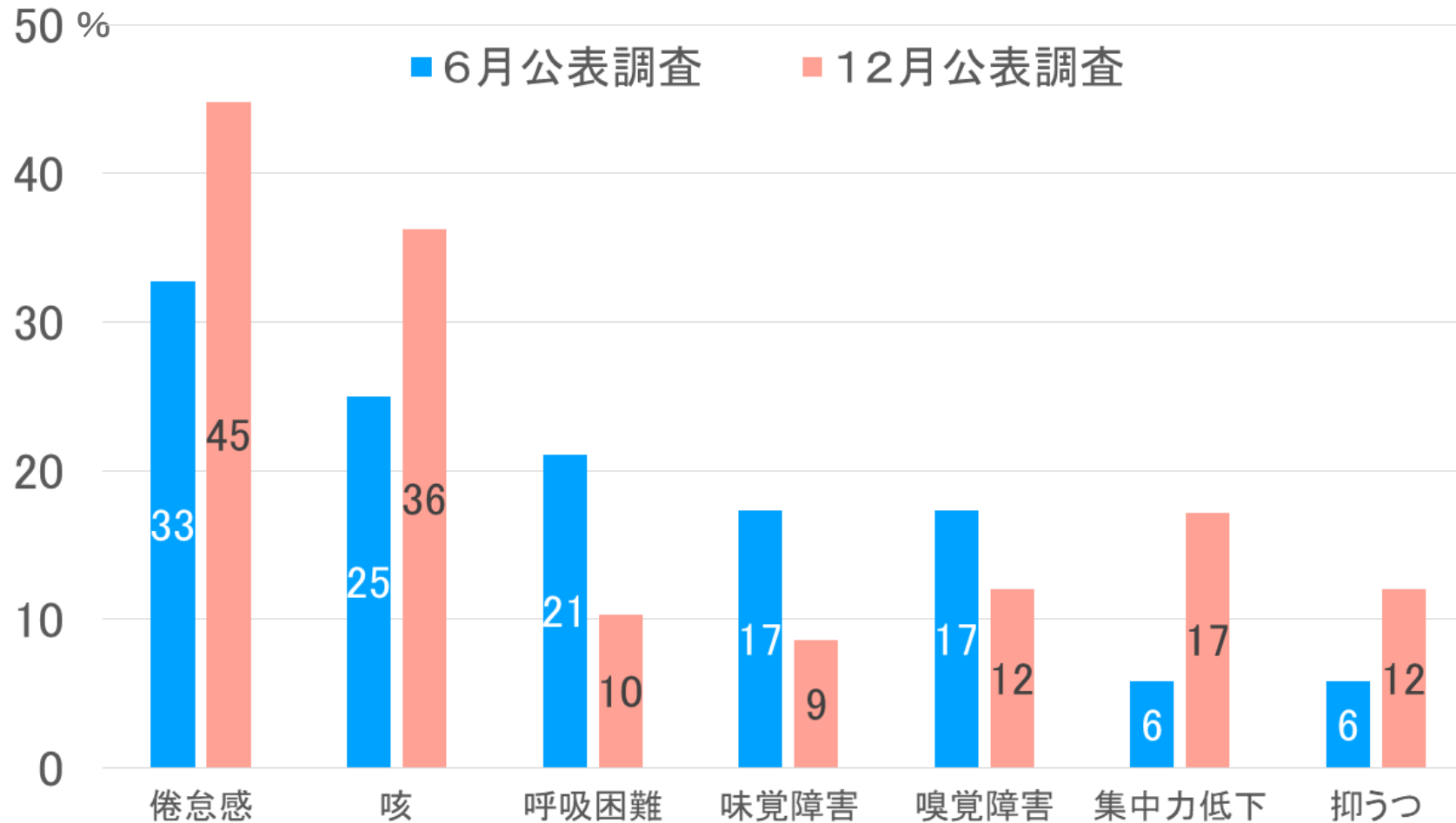


12月公表調査



4 コロナ後遺症の症状について

- ・主な症状では、倦怠感、咳、集中力低下、抑うつが増加し、呼吸困難、味覚障害、嗅覚障害が減少していた。

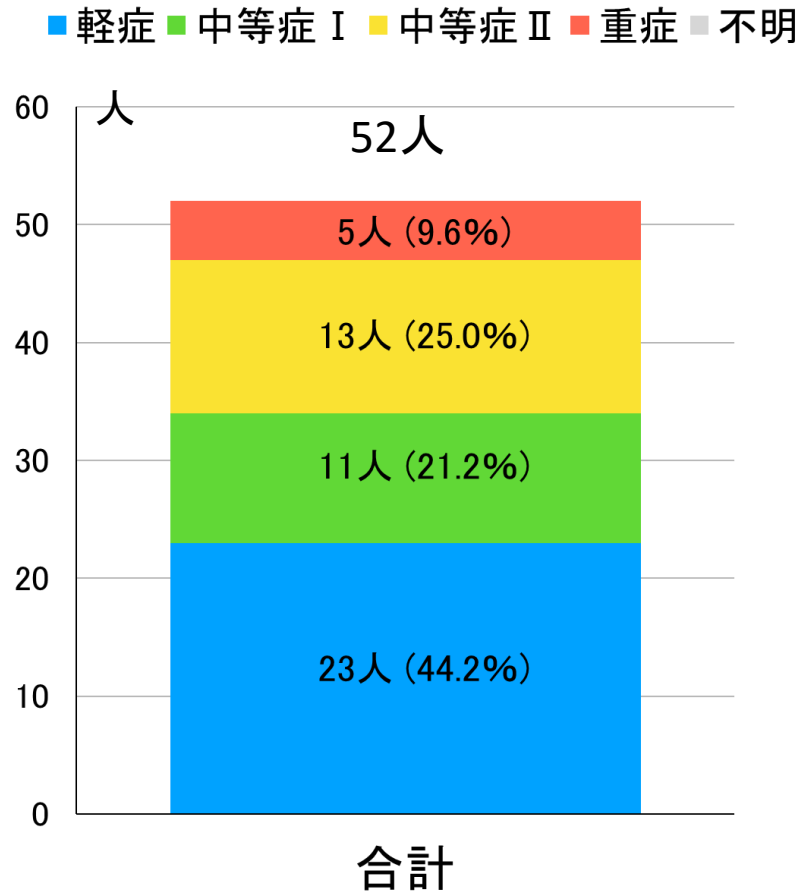


※患者数全体に占める当該症状を訴える患者の割合を比較したもの。

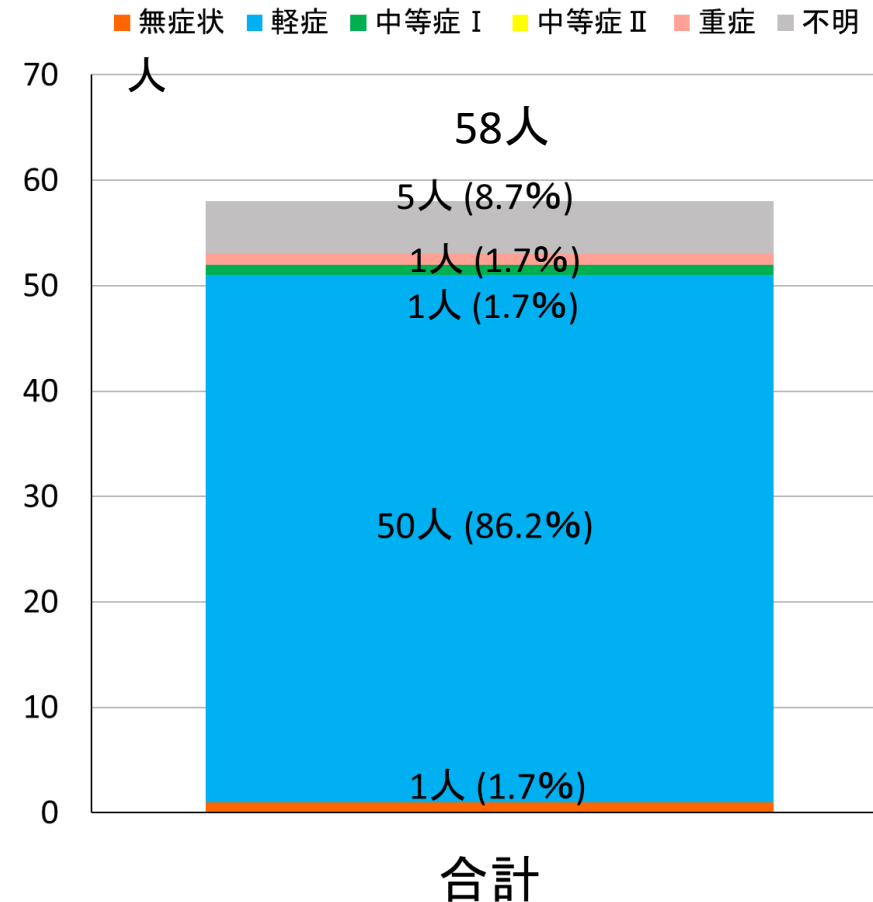
5 コロナ罹患時の症状の程度について

- ・ コロナ罹患時に軽症だった方の割合は、6月公表調査時が44%、12月公表調査時には86%となり4割程度増加していた。

6月公表調査



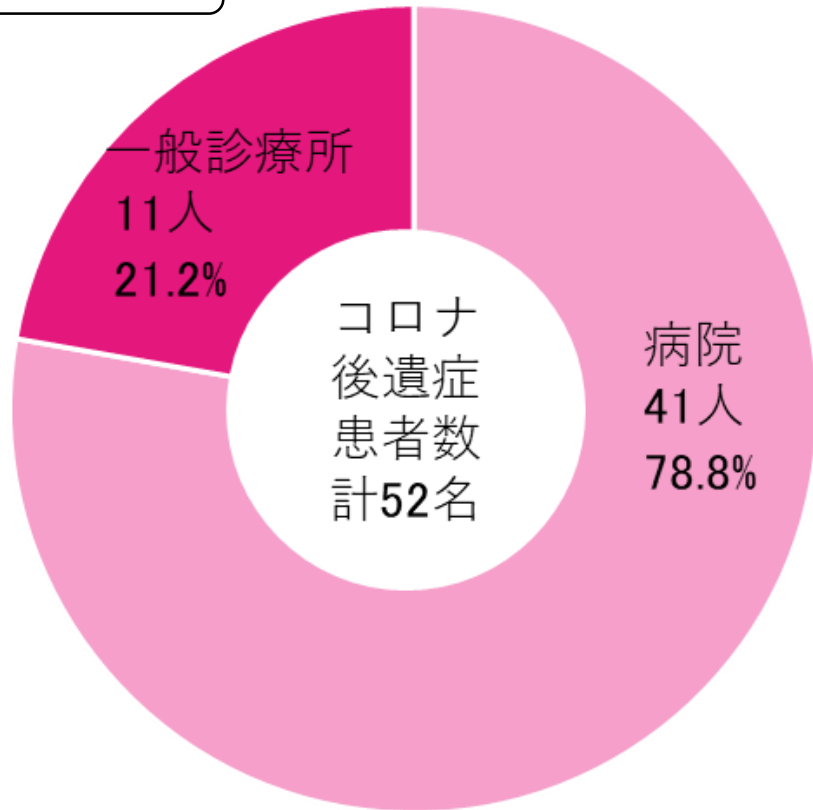
12月公表調査



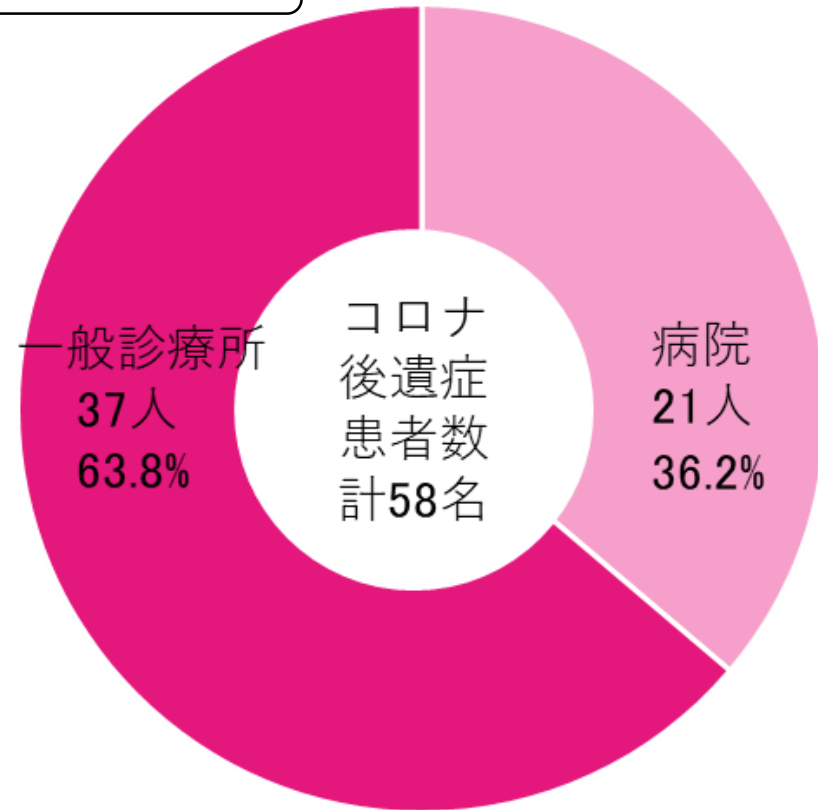
6 医療機関別の診療状況について

- 一般診療所の割合は、6月公表調査時が21%、12月公表調査時には63%となり4割程度増加していた。

6月公表調査



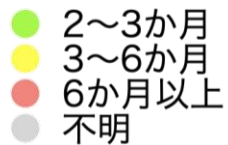
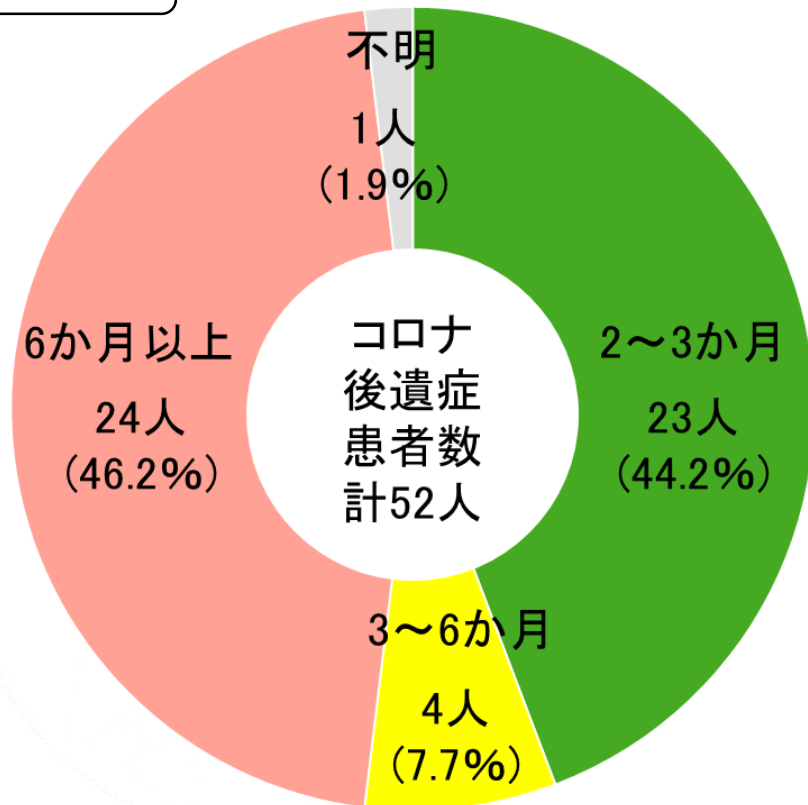
12月公表調査



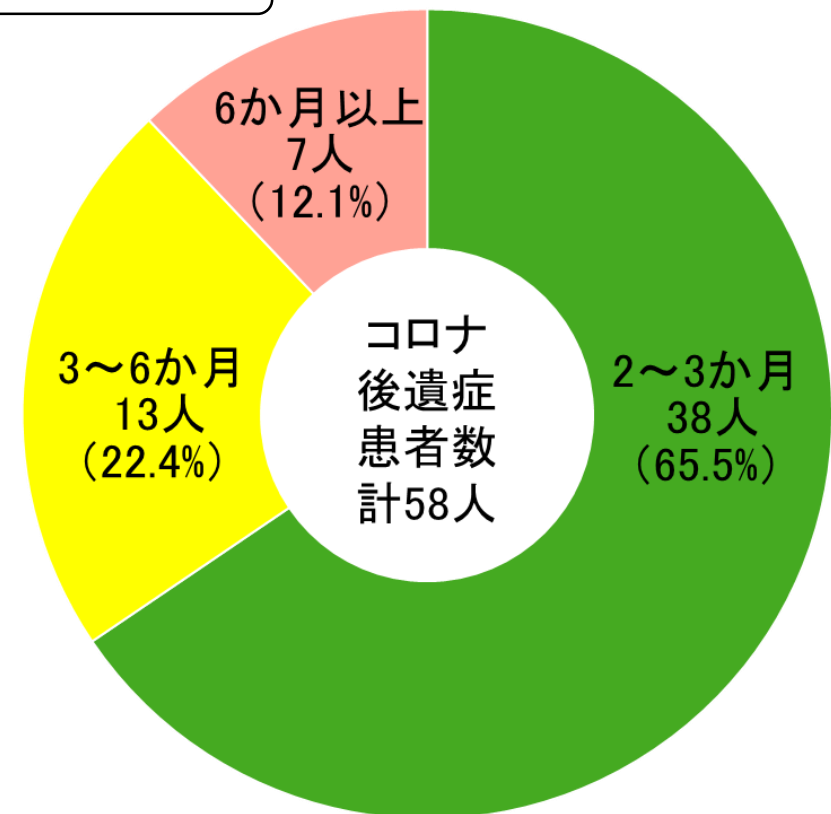
7 コロナ後遺症の継続期間について

- ・症状が6か月以上継続する方の割合は、6月公表調査時には46%であったが、12月公表調査時には12%となり3割程度減少していた。

6月公表調査



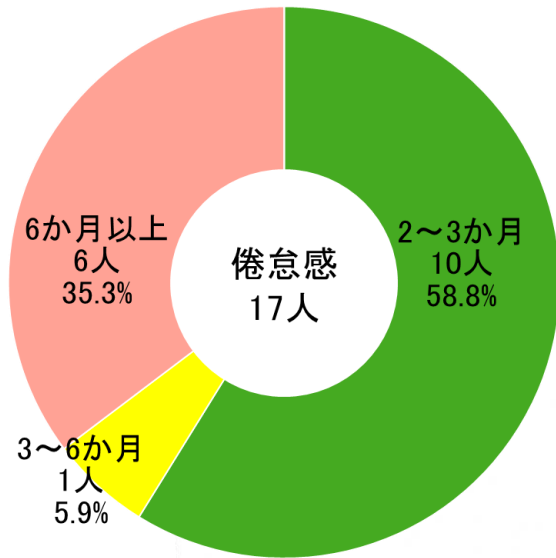
12月公表調査



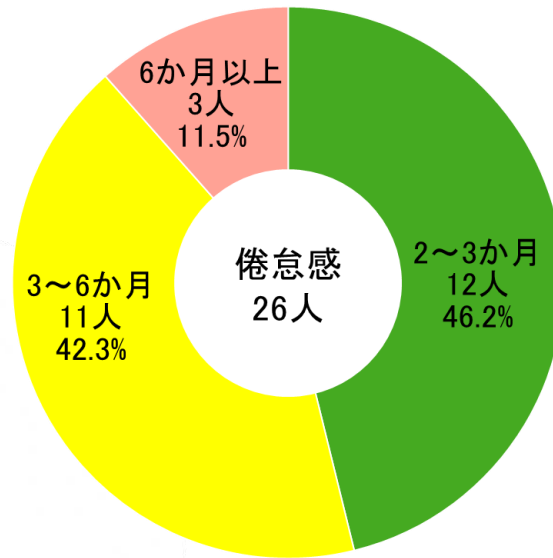
8 主な症状（倦怠感・咳）の継続期間について

- ・倦怠感の症状が6か月以上継続する方の割合は、6月公表調査時が35%、12月公表調査時では11%となり2割程度減少していた。
- ・咳の症状が6か月以上継続する方の割合は、6月公表調査時が23%、12月公表調査時では15%となり1割程度減少していた。

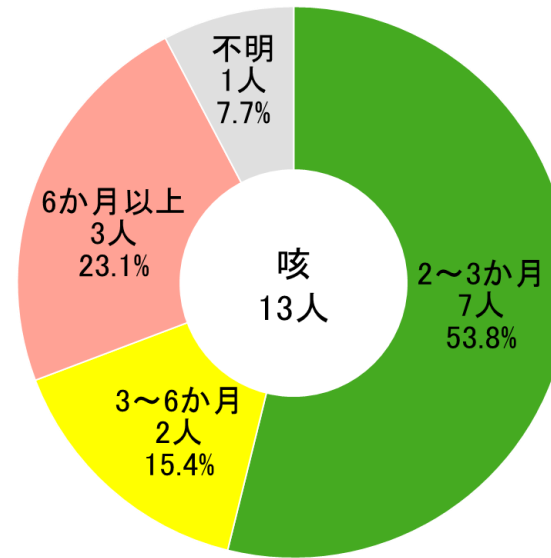
6月公表調査



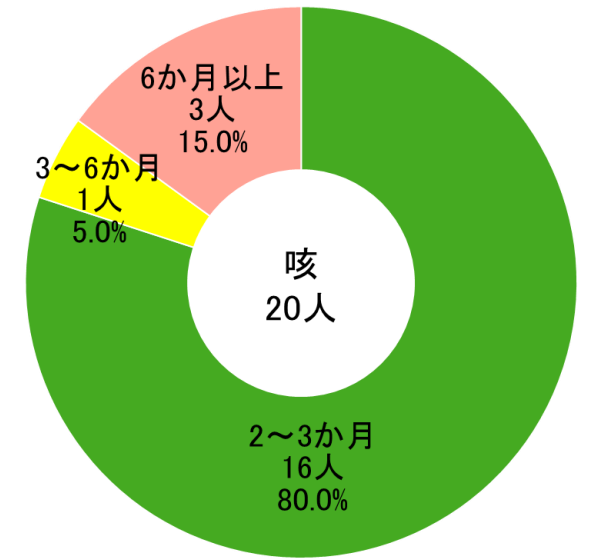
12月公表調査



6月公表調査



12月公表調査

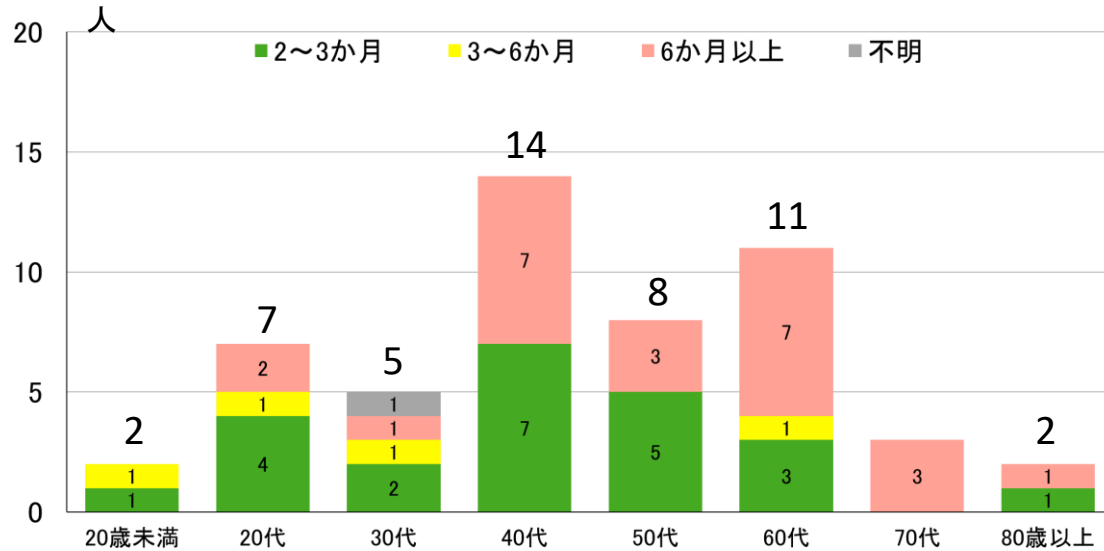


- 2か月未満
- 2~3か月
- 3~6か月
- 6か月以上
- 不明

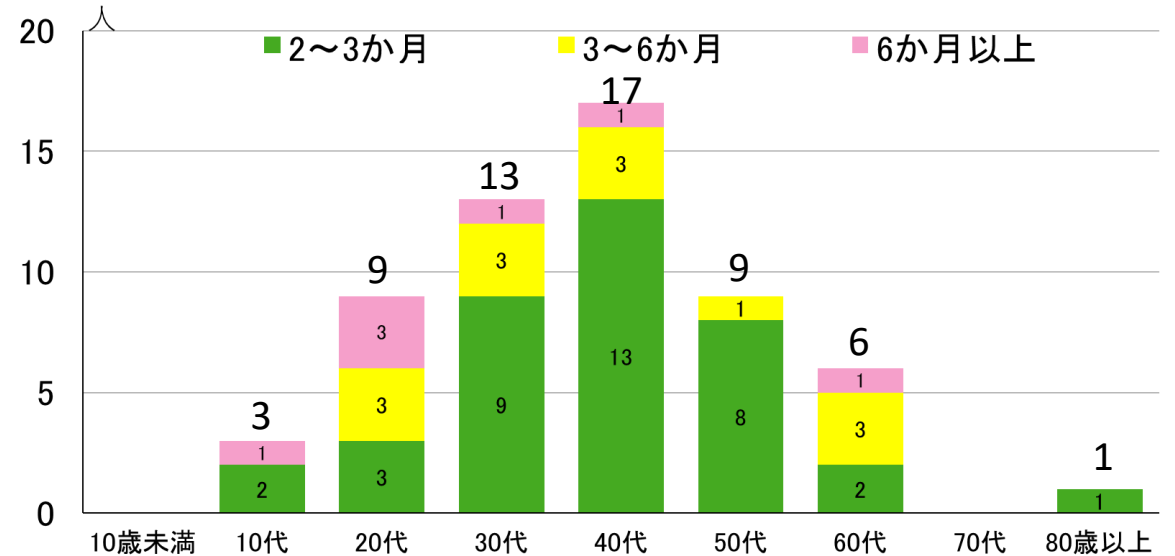
9 年代別のコロナ後遺症の継続期間について

- ・ 6か月以上症状が継続する患者について、40代以降が6月公表調査時から5割程度減少していた。

6月公表調査



12月公表調査

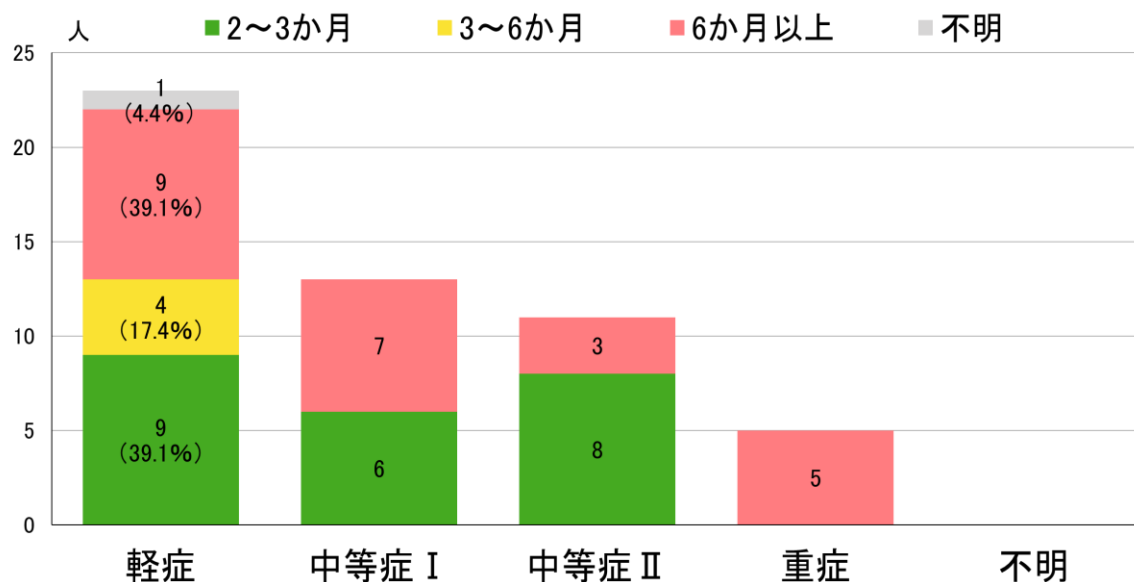


年代	6月調査			12月調査			増減 ②-①
	人数	6か月以上	①割合	人数	6か月以上	②割合	
~30代	14	3	21.4%	25	5	20.0%	-1.4%
40代~	38	21	55.3%	33	2	6.1%	-49.2%
合計	52	24	46.2%	58	7	12.1%	-34.1%

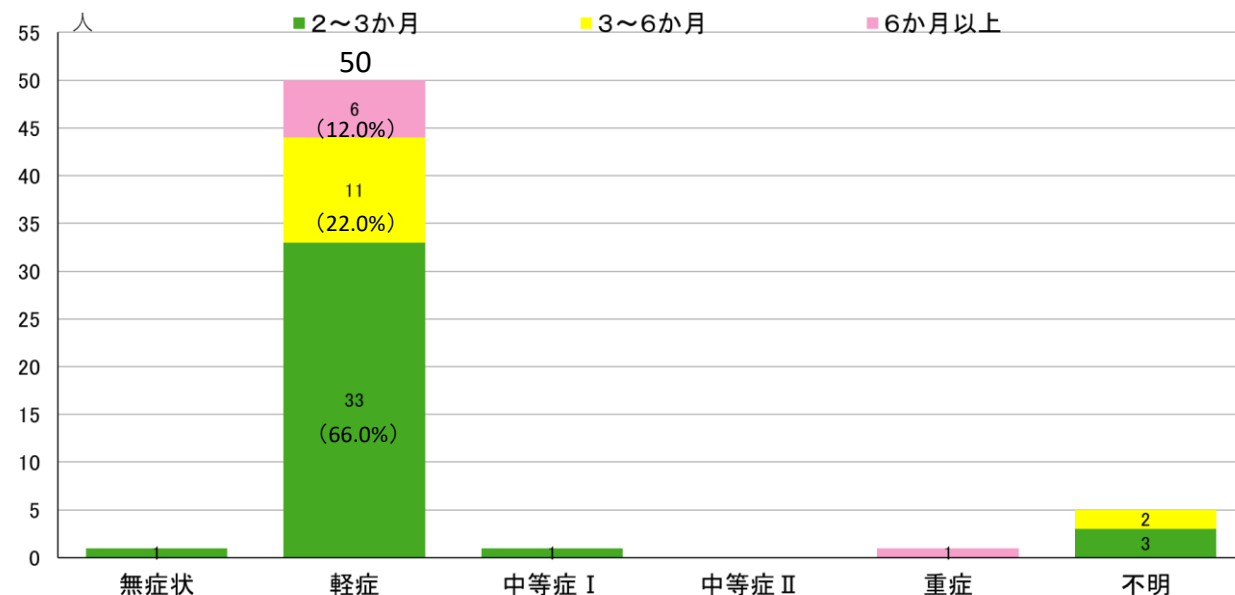
10 罹患時症状の程度別の継続期間について

- ・ 12月公表調査で後遺症の報告があった58人のうち、50人（86％）が罹患時に軽症であった。
- ・ 罹患時に軽症だった方で後遺症の症状が6か月以上継続している方の割合は、6月公表調査時には9人（39％）であったが、12月公表調査時には6人（12％）となり3割程度減少していた。

6月公表調査



12月公表調査



11 治療中の患者について

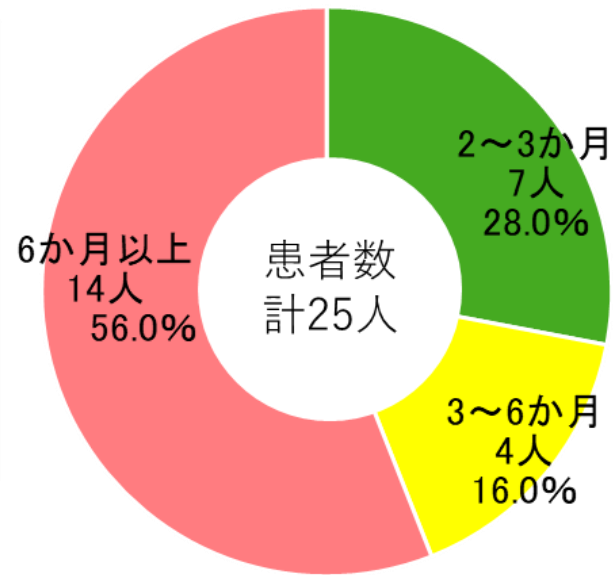
- ・治療中の患者のうち6か月以上症状が継続する方は、6月公表調査時が56%、12月公表調査時24%となり3割程度減少していた。
- ・症状について、倦怠感、咳、頭痛が上位となり、味覚、嗅覚障害が下位となった。

6月公表調査

【6か月以上症状が継続している方の症状】

症 状	件 数
味覚障害	4件
嗅覚障害	3件
呼吸困難	3件
倦怠感	2件
集中力低下	2件
その他	10件

（その他：
発熱、悪寒、筋肉痛など）

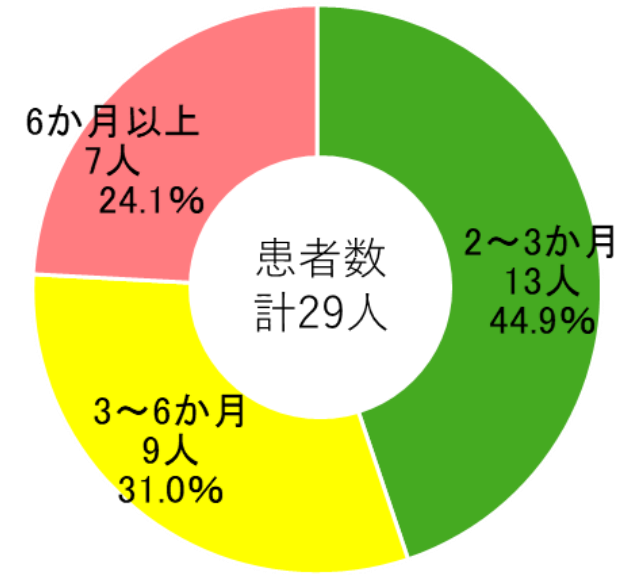


12月公表調査

【6か月以上症状が継続している方の症状】

症 状	件 数
倦怠感	3件
咳	3件
頭痛	2件
嗅覚障害	2件
味覚障害	2件
その他	5件

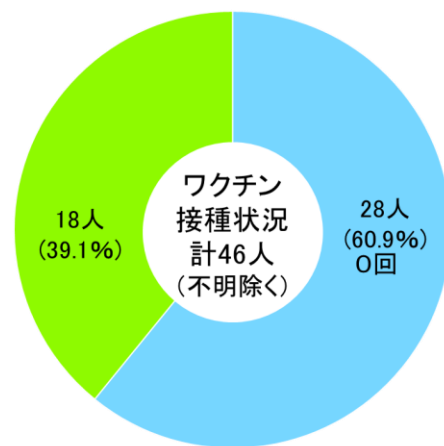
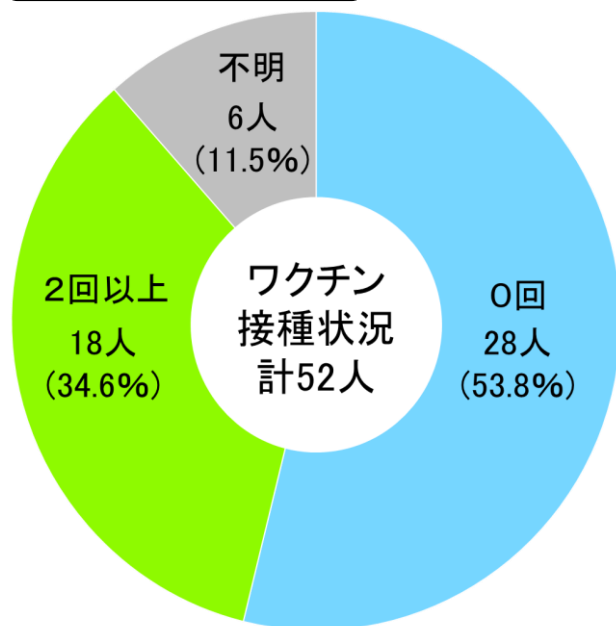
（その他：
睡眠障害、記憶障害など）



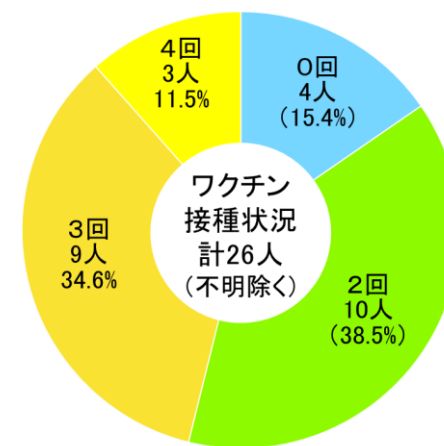
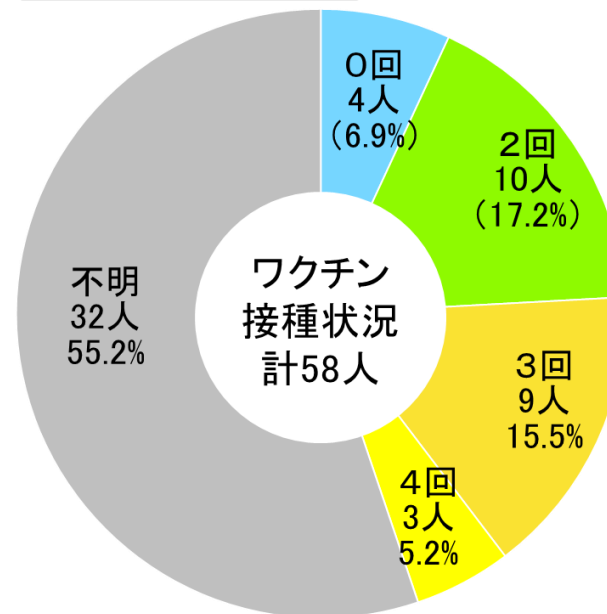
12 ワクチン接種について

- ・ コロナ後遺症を有する方でワクチンを一度も接種していない方の割合は、6月公表調査時が53%、12月公表調査時では6%と5割程度減少していた。

6月公表調査



12月公表調査



13 6月公表調査と12月公表調査の比較結果について

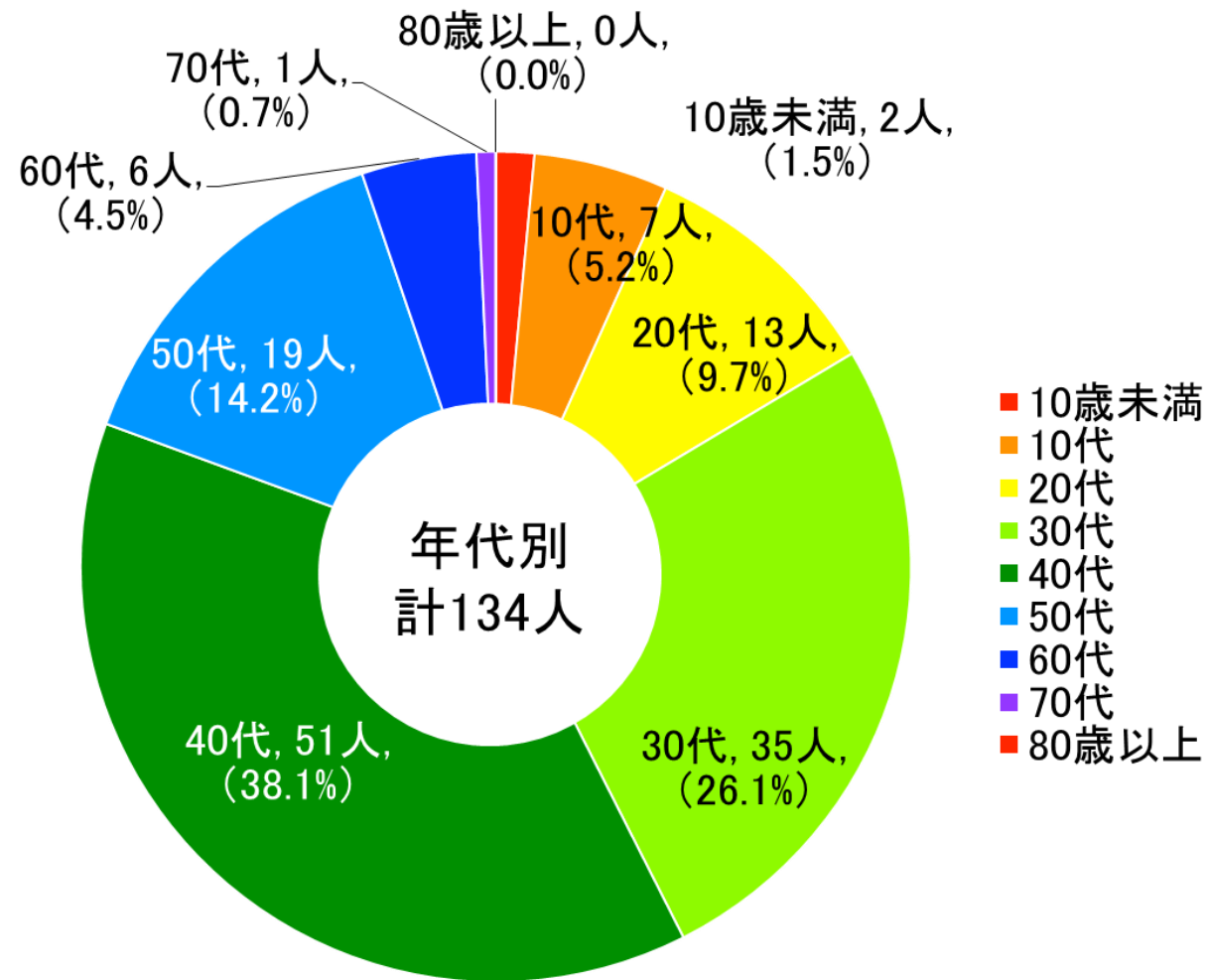
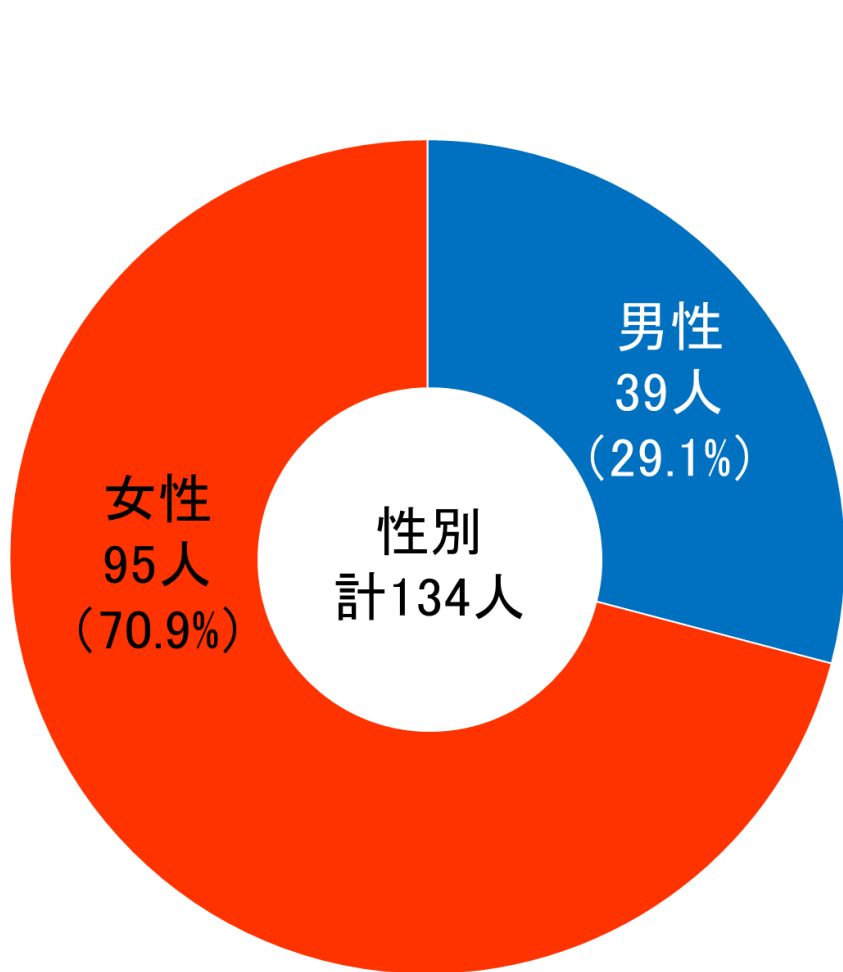
- コロナ後遺症を有する患者の性別は、6月公表調査とオミクロン株による感染拡大後の12月公表調査を比較すると、女性の割合が2割程度増加していた。
- 年代別では、40代が29%で最も多く、学業や仕事を持つ世代の10代から50代の割合は6月公表調査時には69%であったものが、12月公表調査時には88%となり2割程度増加していた。
- 複数症状を有する割合は、6月公表調査時には40%であったが、12月公表調査時には57%となり2割程度増加していた。また、主な症状では、倦怠感、咳、集中力低下、抑うつが増加し、呼吸困難、味覚障害、嗅覚障害が減少していた。
- 後遺症の症例について回答していただいた一般診療所の診療割合は、6月公表調査時には22%であったが、12月公表調査時には60%となり4割程度増加していた。
- オミクロン株以降は、コロナ罹患時に軽症である方がほとんどであり、罹患時に軽症の方で後遺症の症状が6か月以上継続している方の割合は、6月公表調査時には39%であったが、12月公表調査時には12%となり3割程度減少していた。
- 治療中の患者のうち6か月以上症状が継続する方は、6月公表調査時が56%、12月公表調査時24%となり3割程度減少していた。

II 県民を対象とした調査結果

オミクロン株による感染拡大以降（令和4年1月以降）から9月24日までに新型コロナウイルス感染症に罹患した方を対象とし、県ホームページに設置した専用サイトから直接回答いただいたもの。

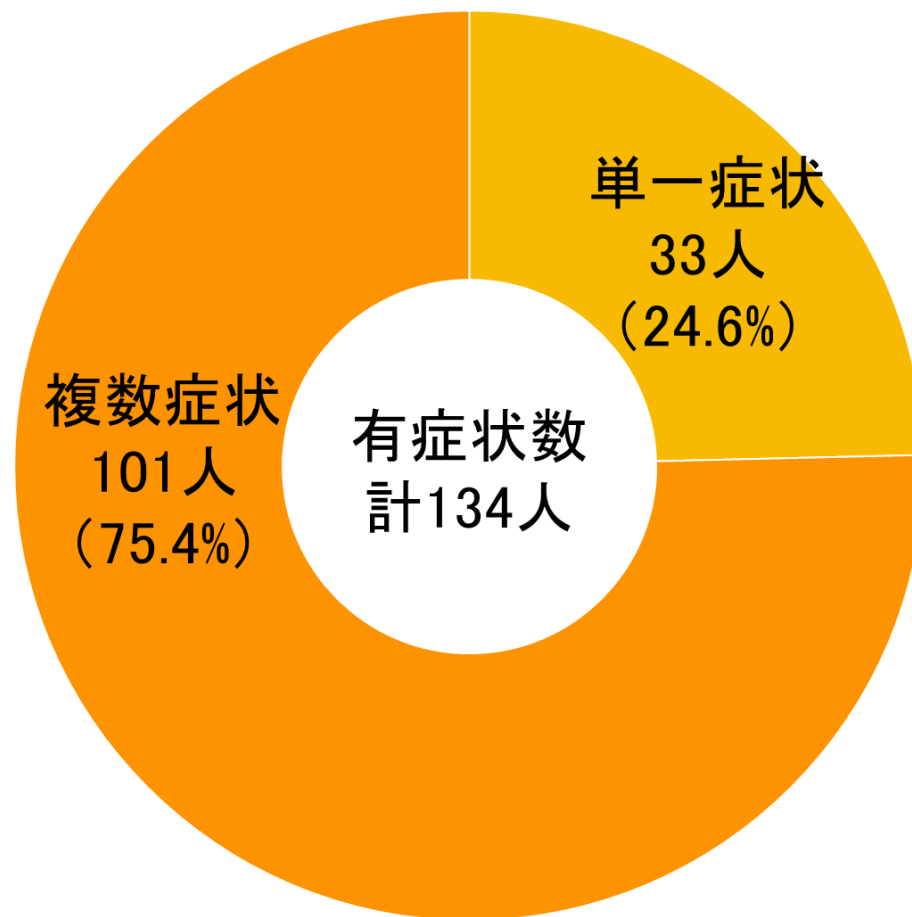
1 性別、年代について

- ・回答者249人のうちコロナ後遺症があると回答した方は134人であった。コロナ後遺症を有していると回答した方の70%は女性だった。
- ・年代別では40代が38%と最も多く、次いで30代が26%であった。



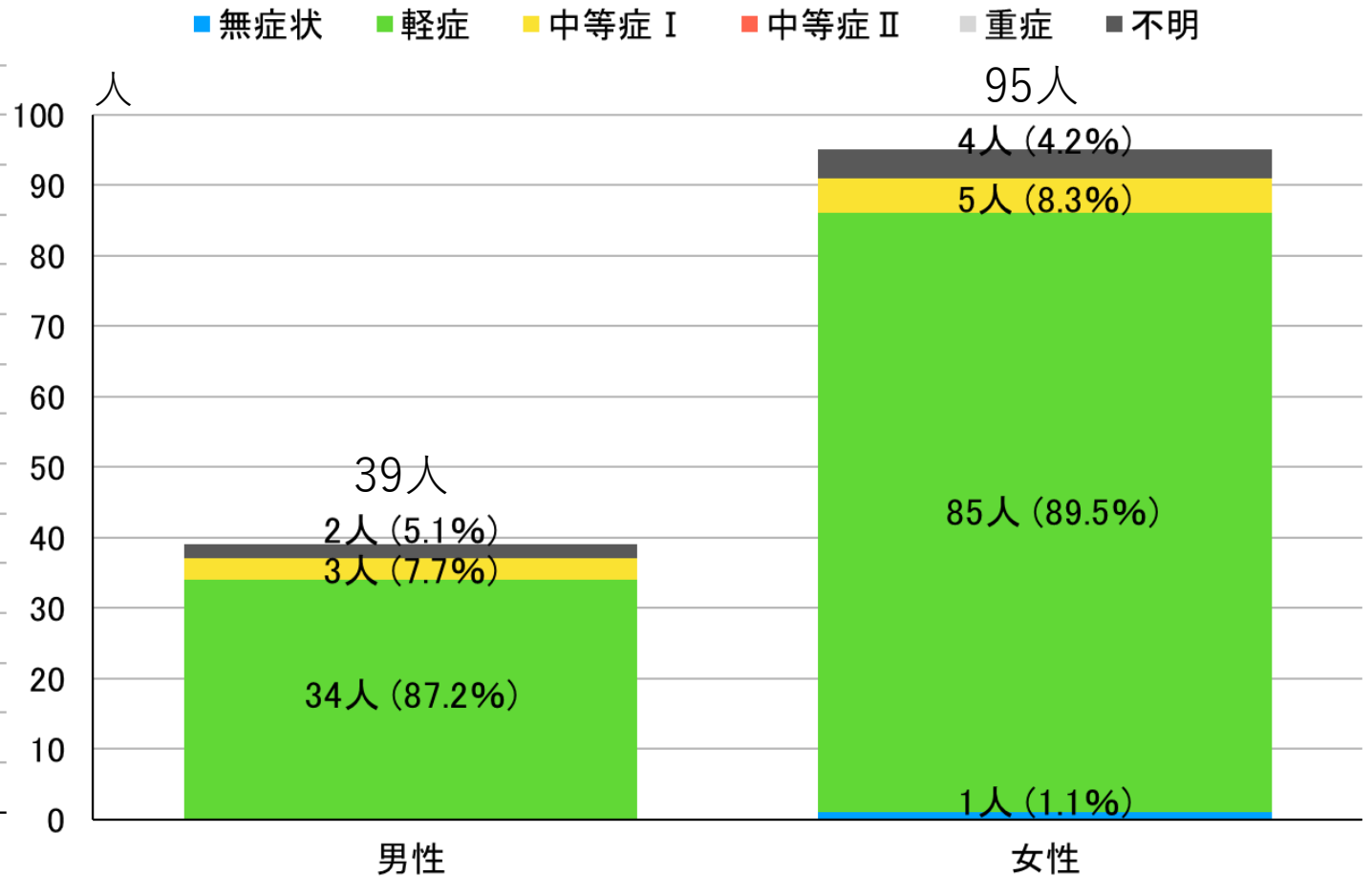
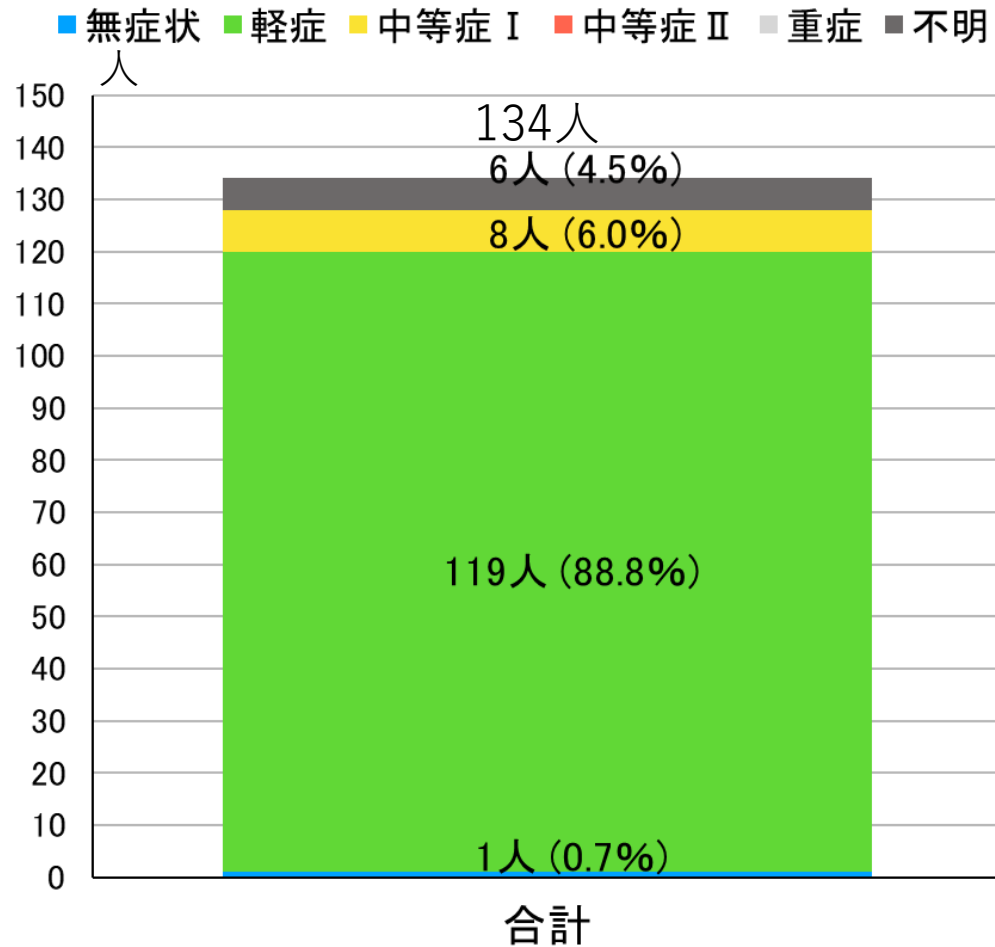
2 コロナ後遺症の症状の数について

- ・ コロナ後遺症の症状は、複数症状の方が75%となり、単一症状の方は24%であった。



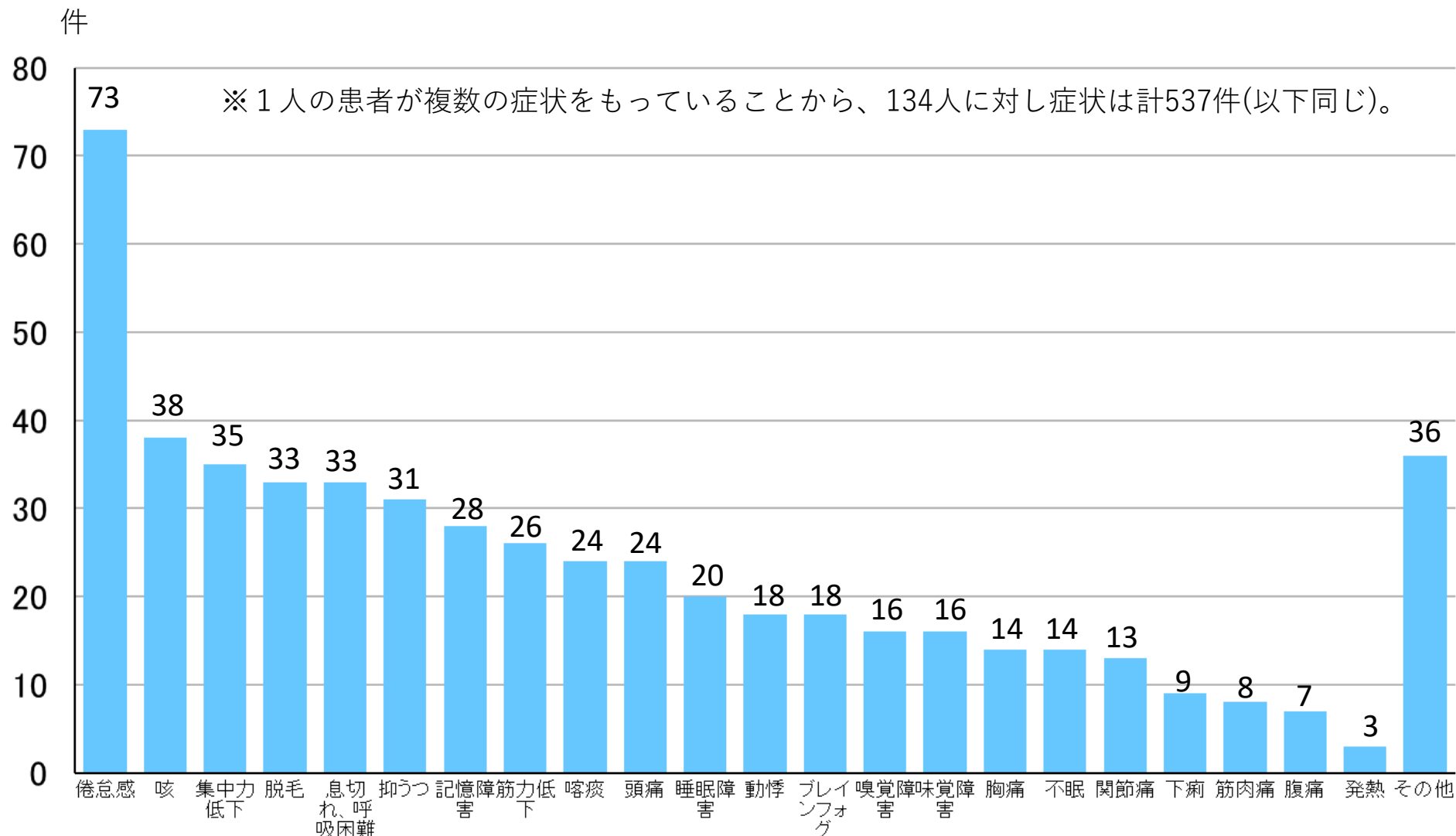
3 コロナ罹患時の症状の程度について

・ コロナ後遺症の症状を有していると回答した方の88%がコロナ罹患時に軽症だった。



4 コロナ後遺症の症状について

- ・倦怠感が73件と一番多く、次に咳38件、集中力低下35件となっていた（複数回答あり）。

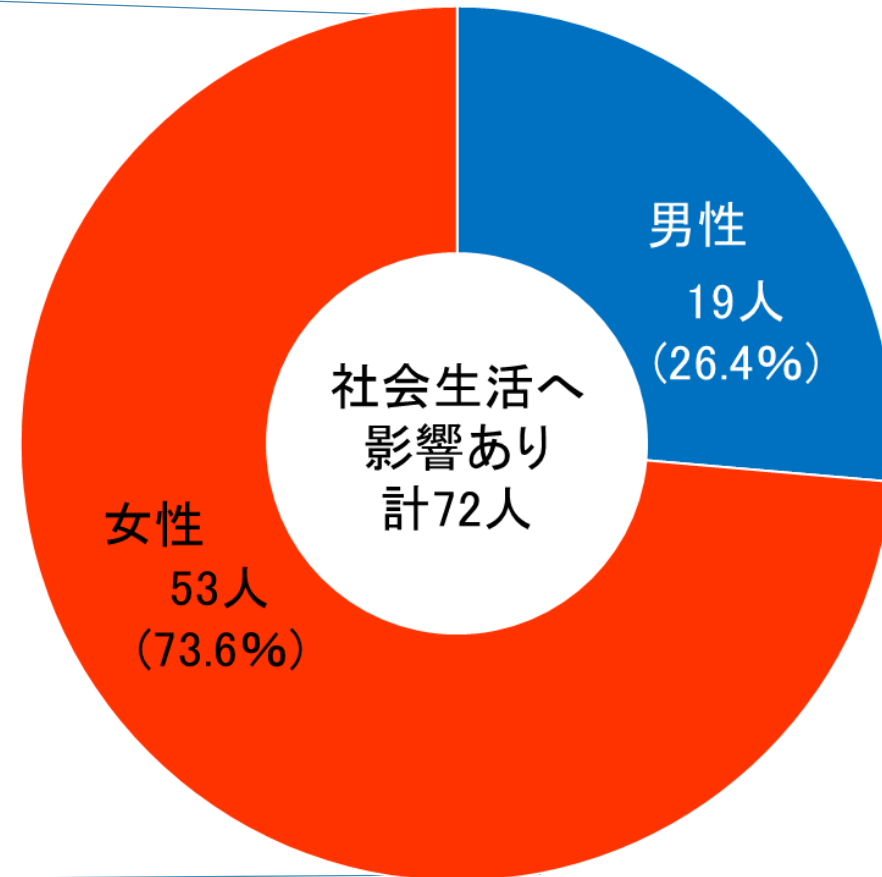
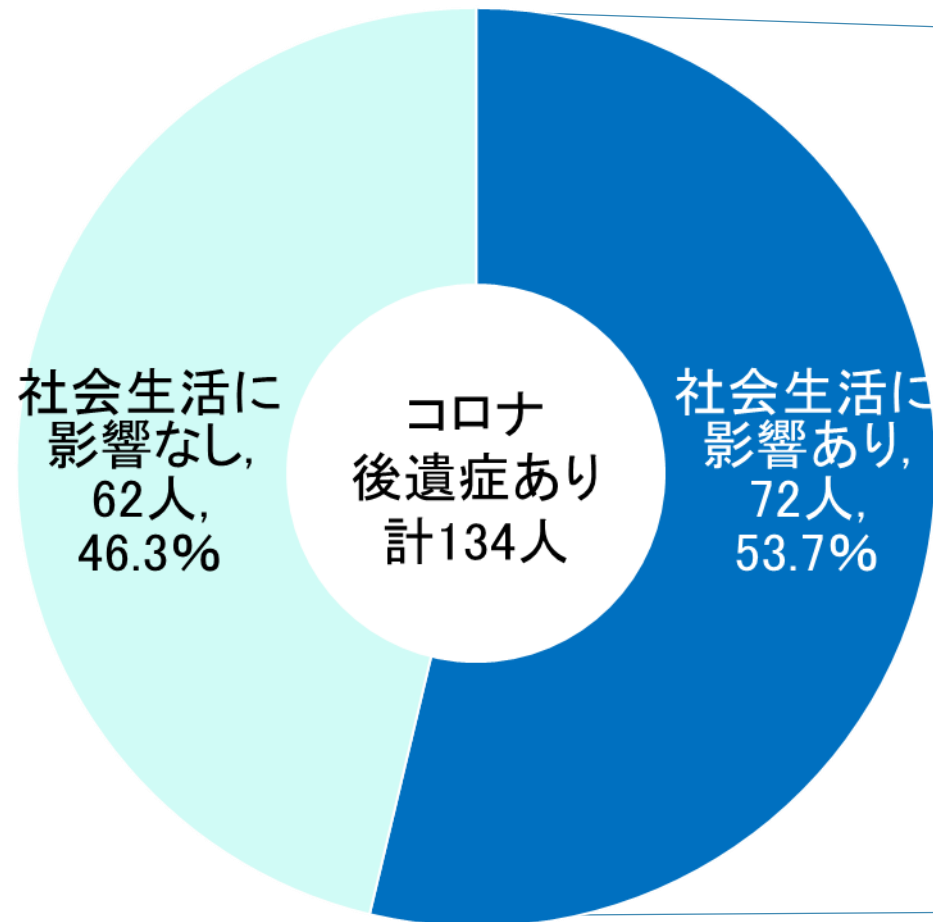


その他：
声が出ない、
咽頭痛、じん
ましんなど

※ブレインフォグとは、「頭がボーっとする」などの自覚症状が特徴的で、精神的疲労、知的明晰さの欠如、不安などの様々な症状を包含する広義の認知障害の一種。
(厚生労働省 新型コロナウイルス感染症診療の手引き (別冊 罹患後症状のマネジメントより))

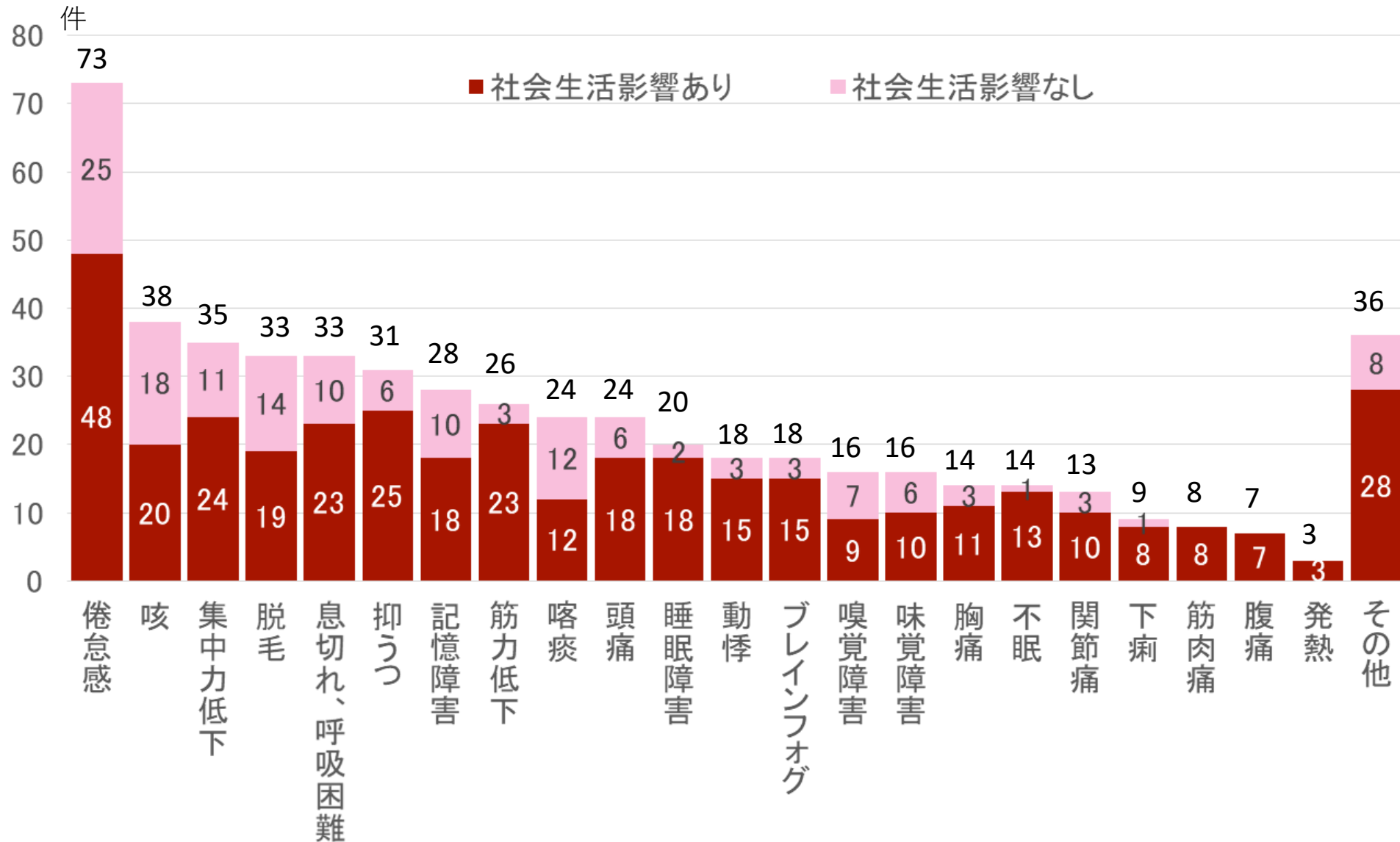
5 社会生活への影響について

- ・ コロナ後遺症の症状がある134人のうち、社会生活への影響があったと回答した方は72人（53%）。そのうち53人(73%)は女性だった。



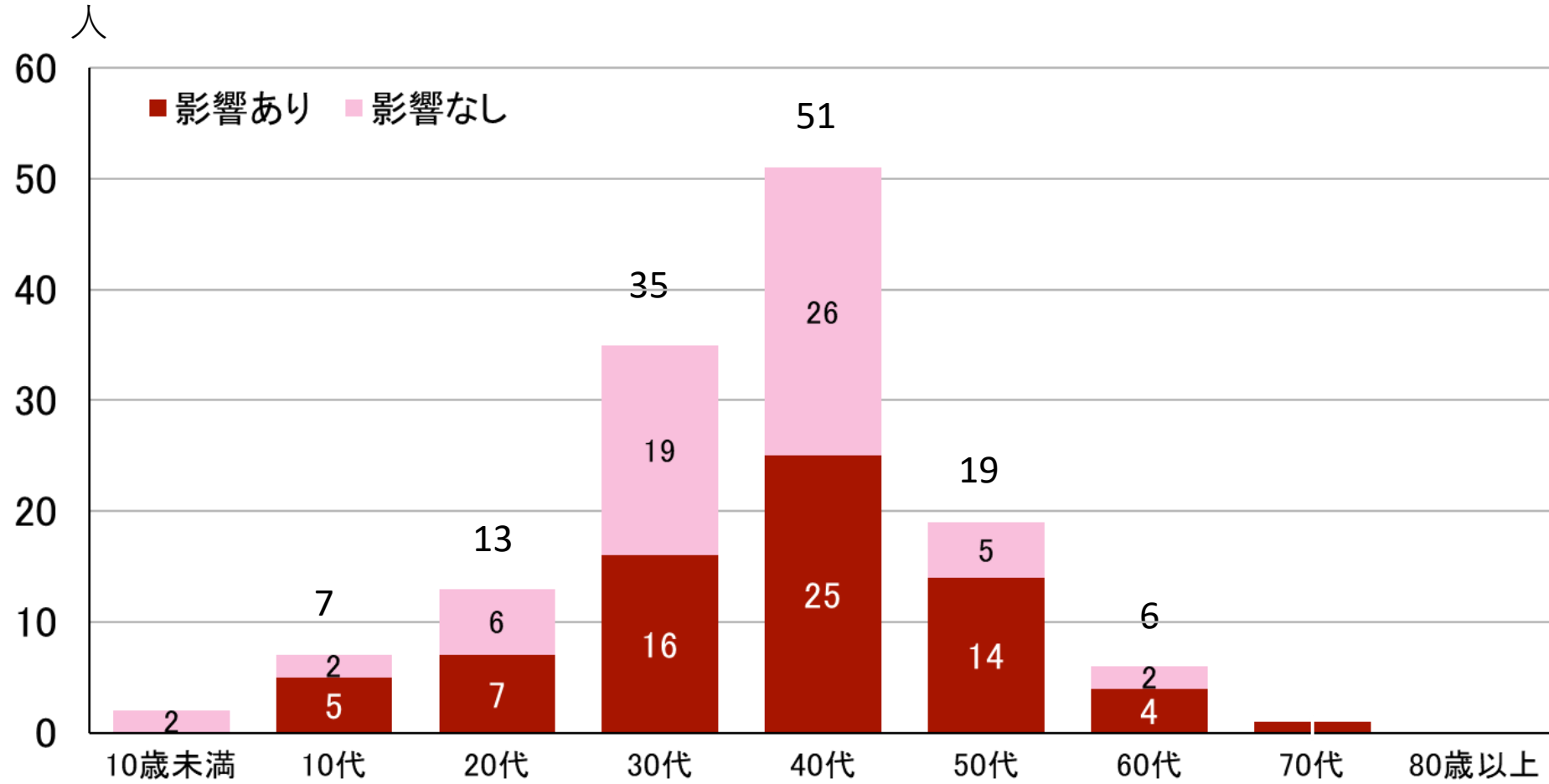
6 症状別の社会生活への影響について

・倦怠感、咳、集中力低下など、全ての症状で社会生活への影響があったと回答した方がいた。



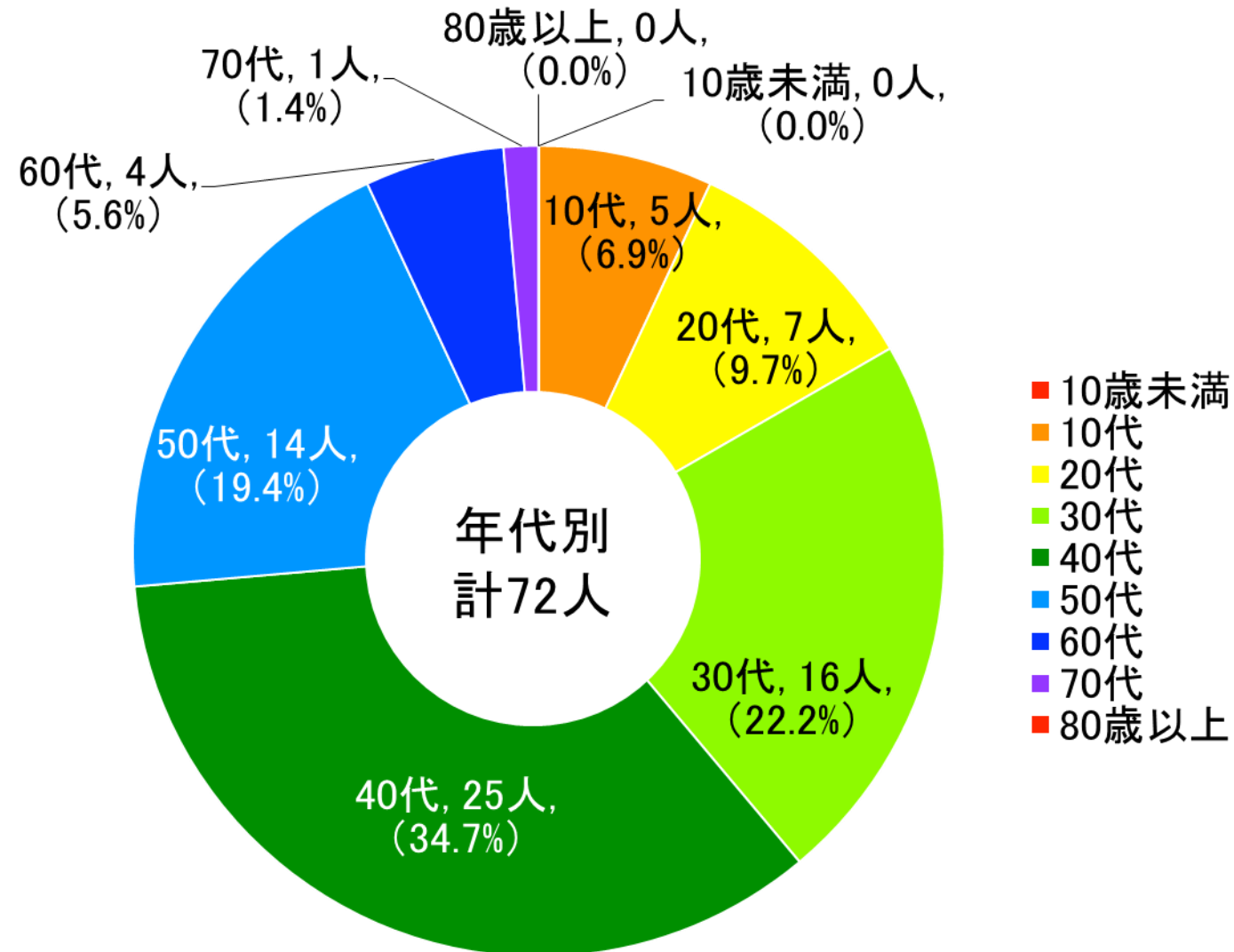
7 年代別の社会生活への影響について

- ・ 10歳未満を除いた全ての年代で社会生活へ影響があったと回答した方がいた。



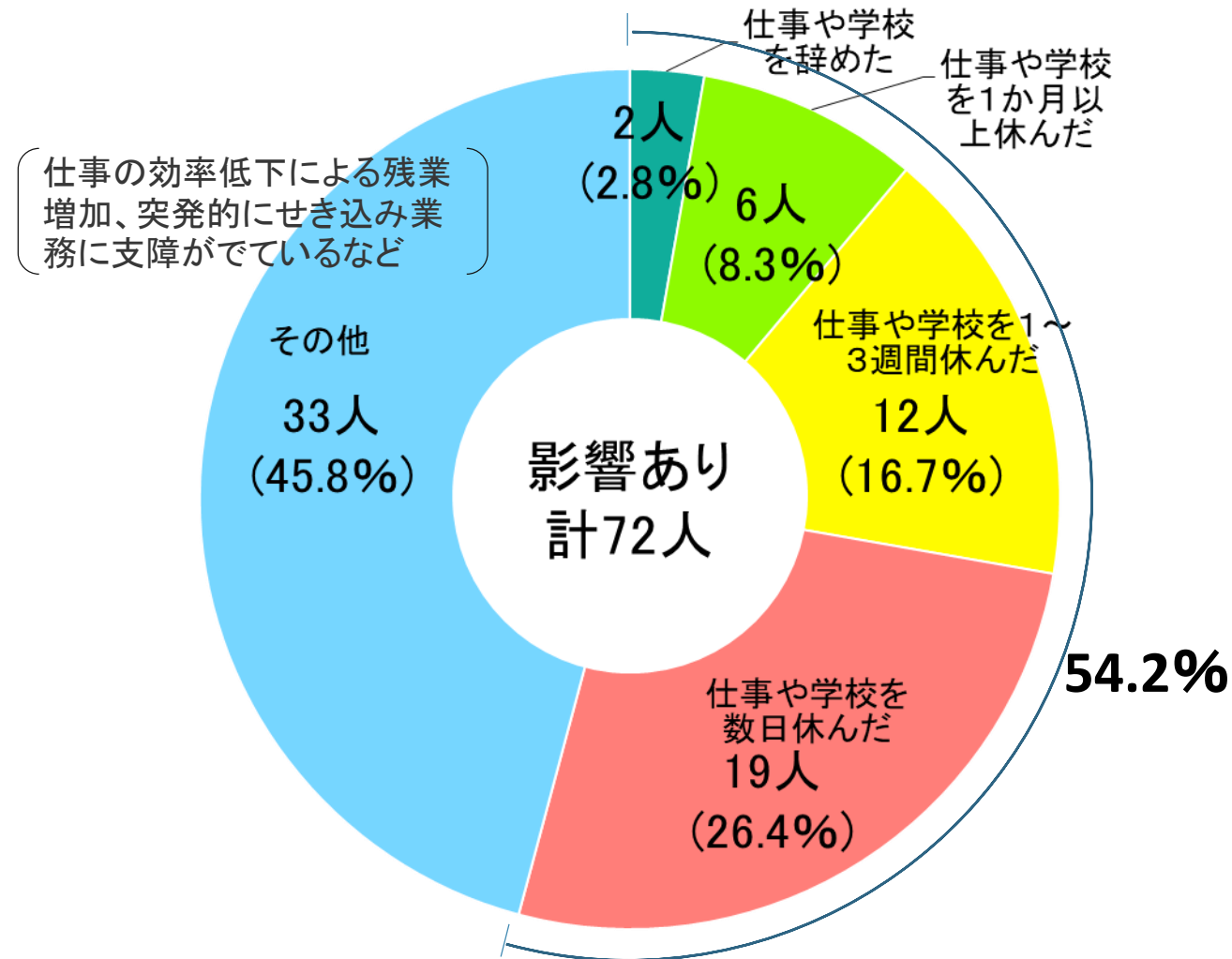
8 社会生活へ影響があった方の年代別について

- ・ 社会生活へ影響があった72人のうち、年代別では40代が最も多く次いで30代となっている。



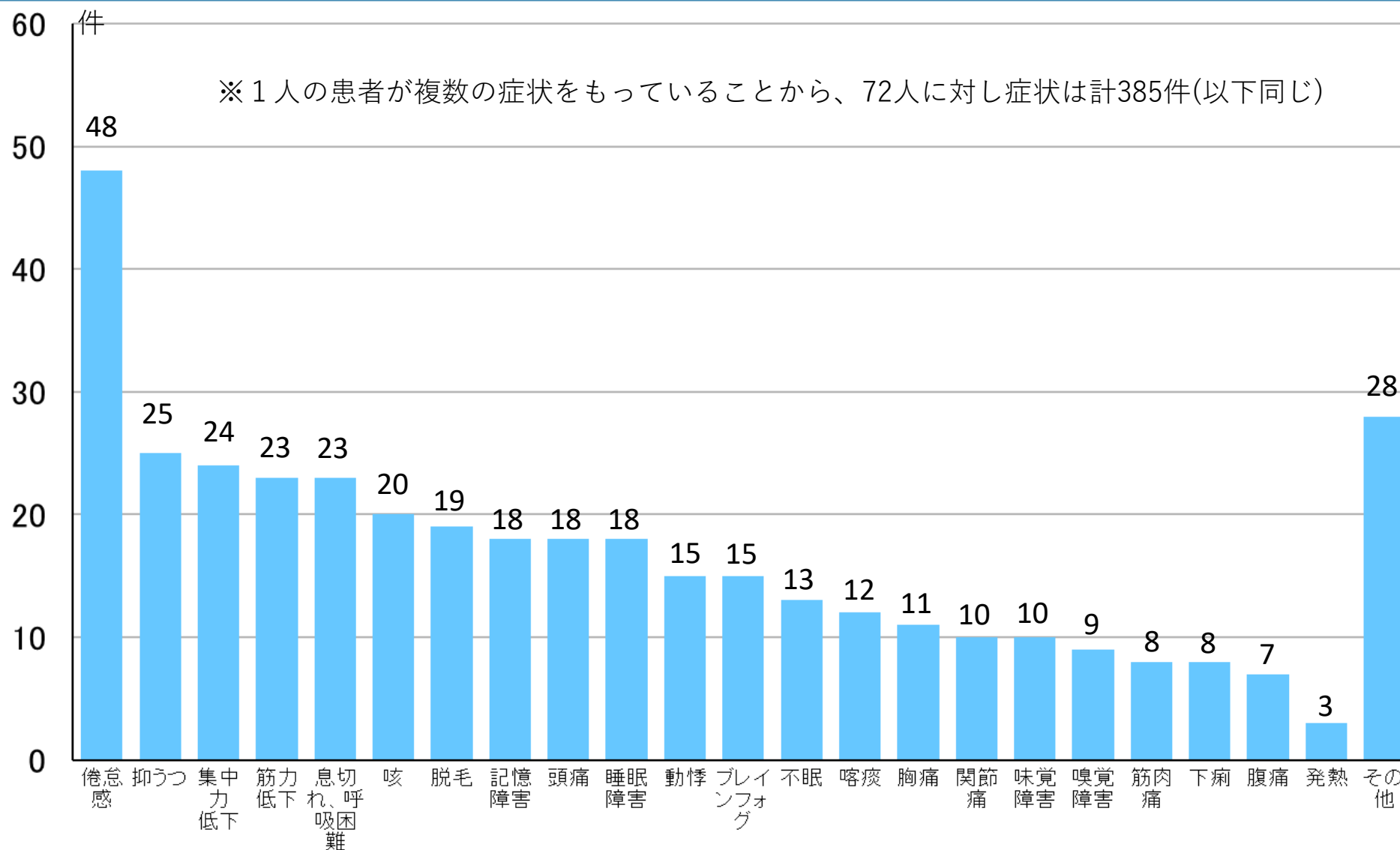
9 社会生活へ影響があった方の影響の程度について

- 社会生活へ影響があった72人のうちコロナ後遺症のため仕事や学校を辞めたり、休んだりした方は54%を占めた。



10 社会生活へ影響があった方の症状について

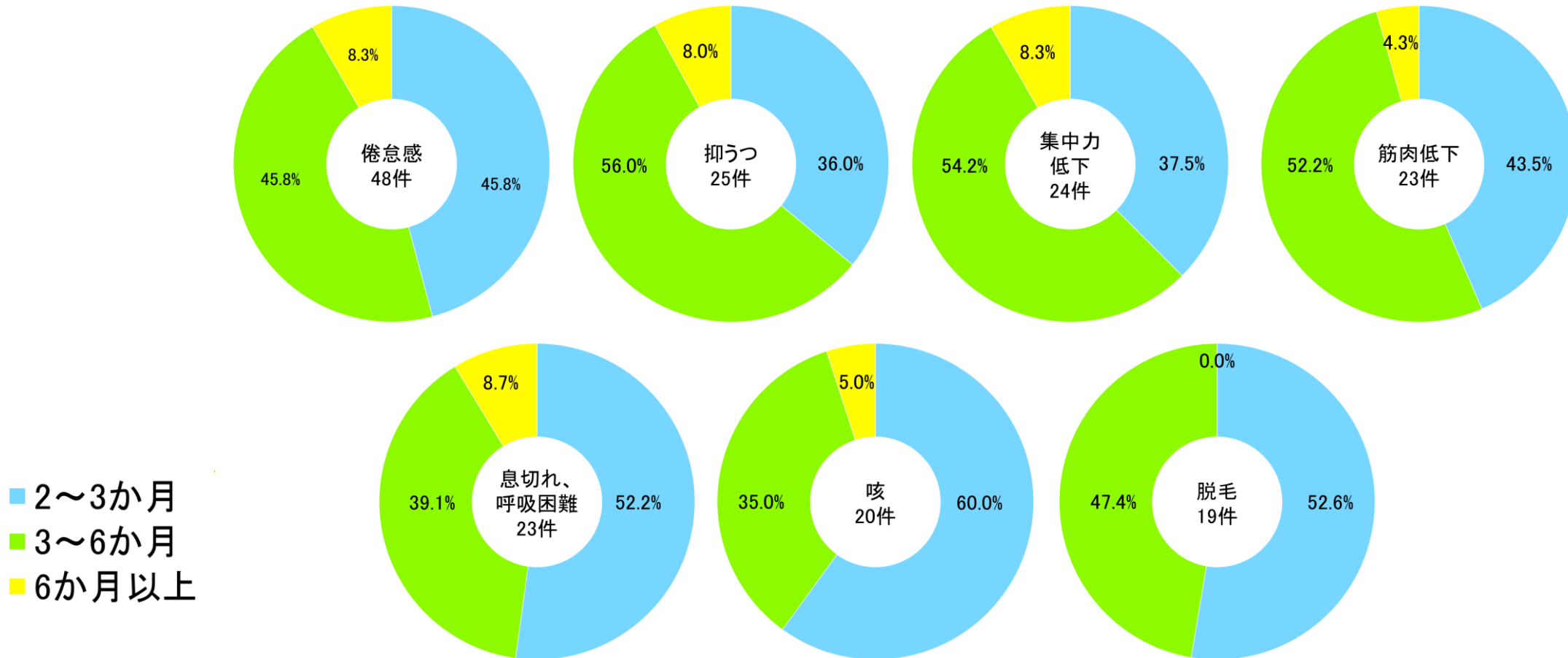
- ・倦怠感が48件と一番多く、次に抑うつ25件、集中力低下24件となっていた（複数回答あり）。



その他：
声が出ない、
咽頭痛、じん
ましんなど

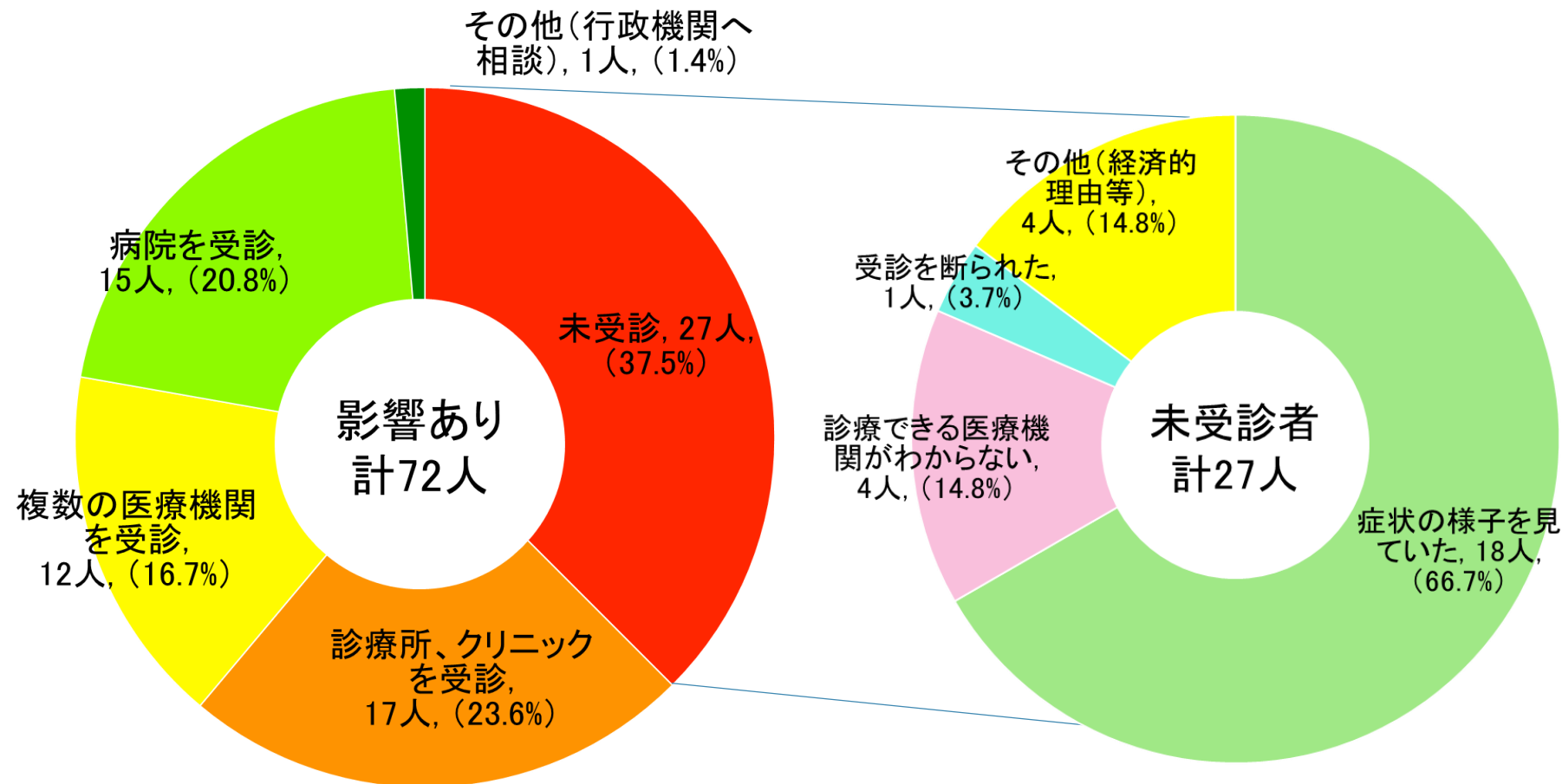
11 社会生活へ影響があった方の症状の継続期間について

- ・ 倦怠感、抑うつ、集中力低下、筋力低下の継続期間は、3か月以上が半数を占めていた。
- ・ 息切れ・呼吸困難、咳、脱毛の継続期間は、2～3か月が半数を占めていた。



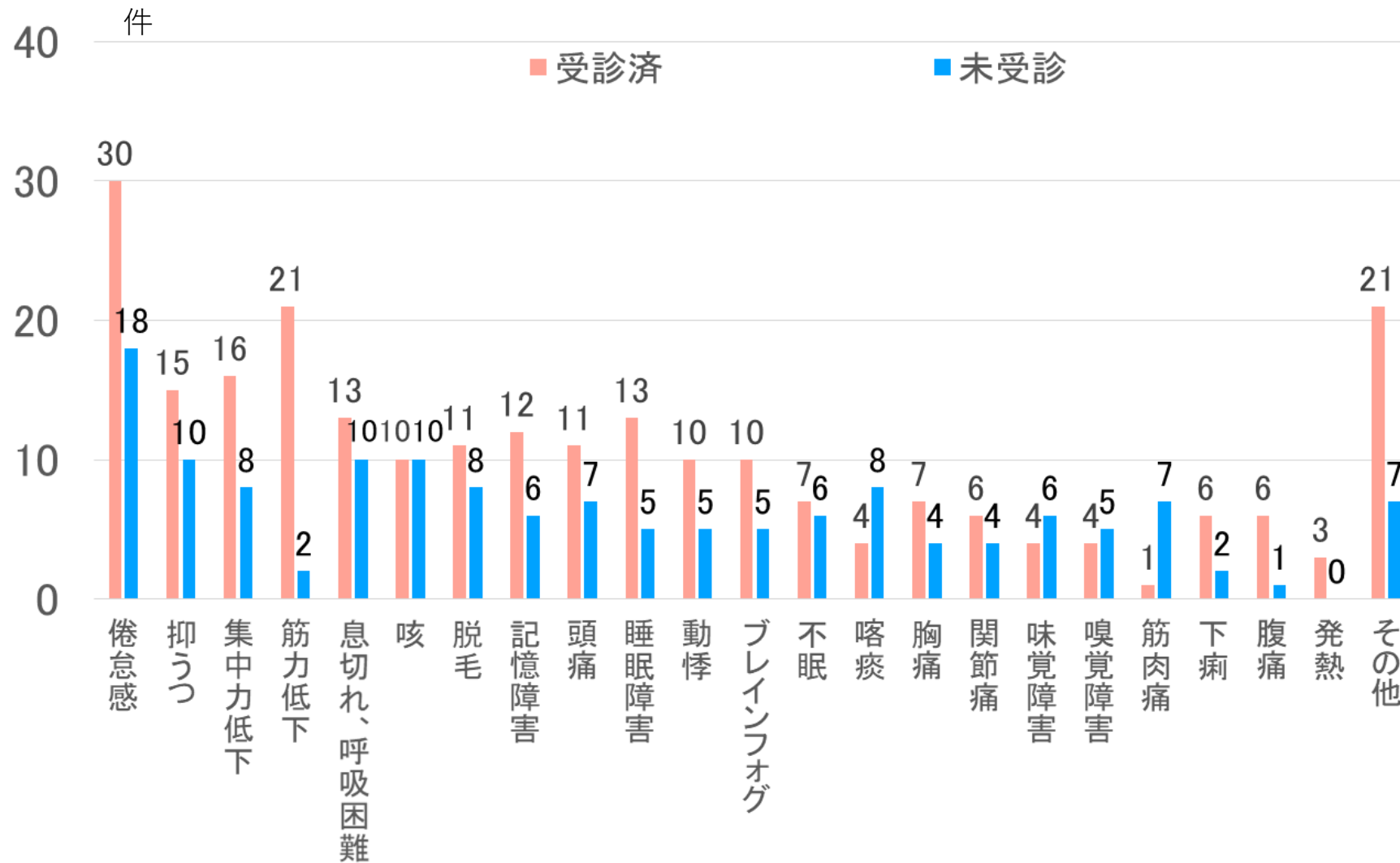
12 社会生活へ影響があった方の受診状況について

- ・ 社会生活へ影響があった72人のうち27人（37％）は医療機関を受診していなかった。
- ・ 未受診の理由は、症状の様子を見ていたが66％であり、受診できる医療機関がわからないが14％だった。



13 社会生活へ影響があった方の症状別受診状況について

- ・倦怠感、抑うつ、息切れ・呼吸困難は、10件以上の未受診があった。
- ・喀痰、味覚障害、嗅覚障害、筋肉痛は、未受診の件数が受診済より多い。

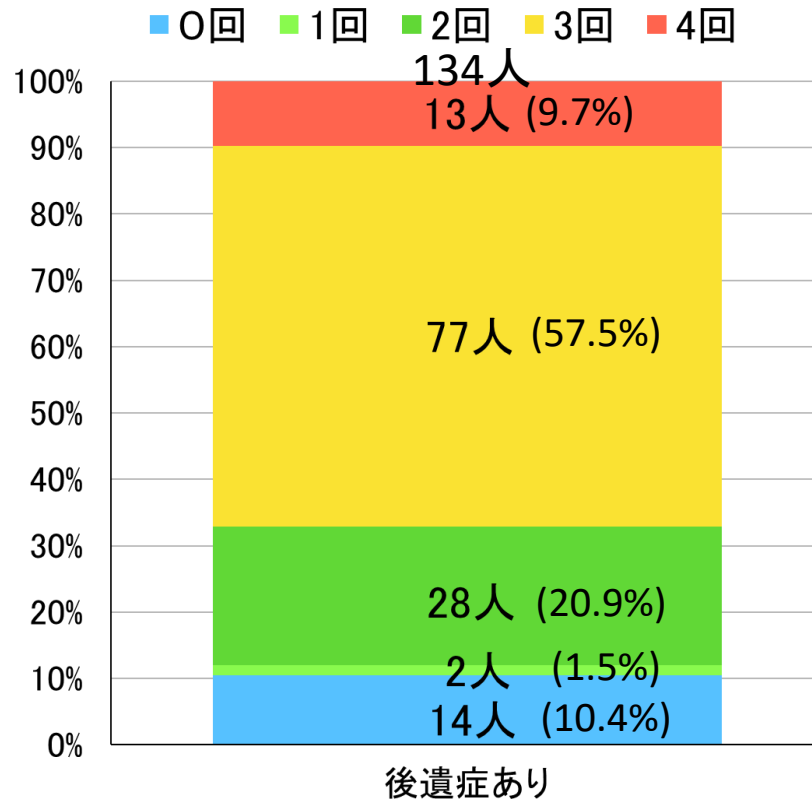


その他：
声が出ない、咽
頭痛、じんまし
んなど

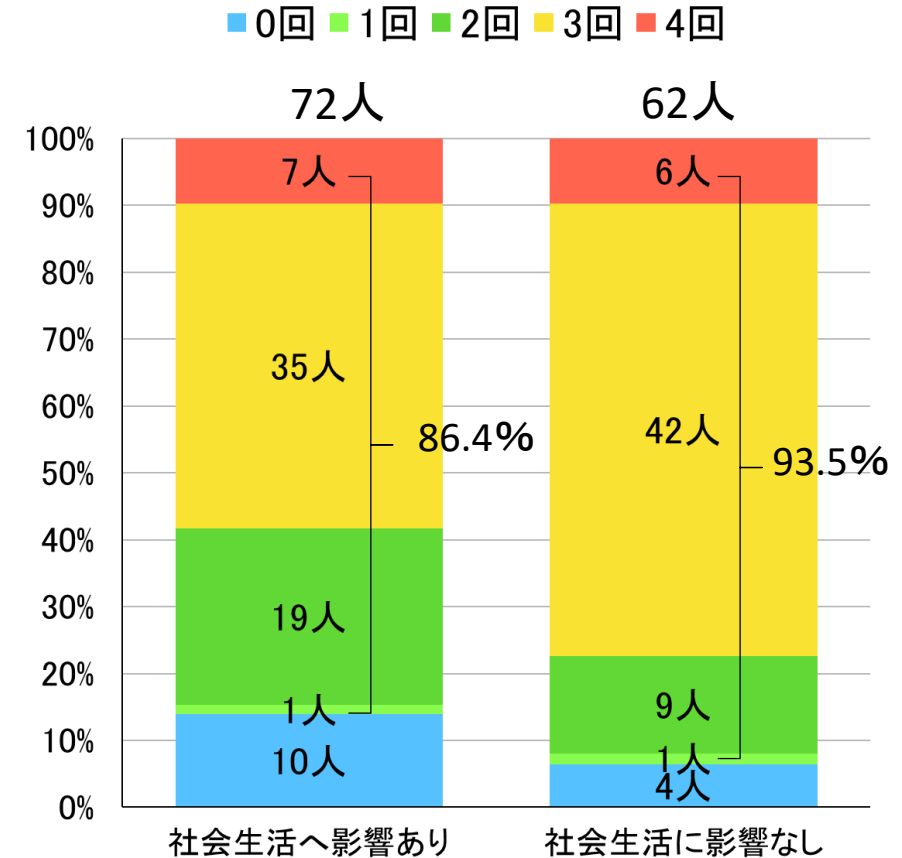
14 ワクチン接種と社会生活への影響について

- ・コロナ後遺症を有していると回答した方の9割程度がワクチンを接種済みだった。
- ・コロナ後遺症が社会生活への影響がなかったと回答した62人のうち、93%がワクチン接種をしていた。

ワクチン接種の回数と後遺症の有無



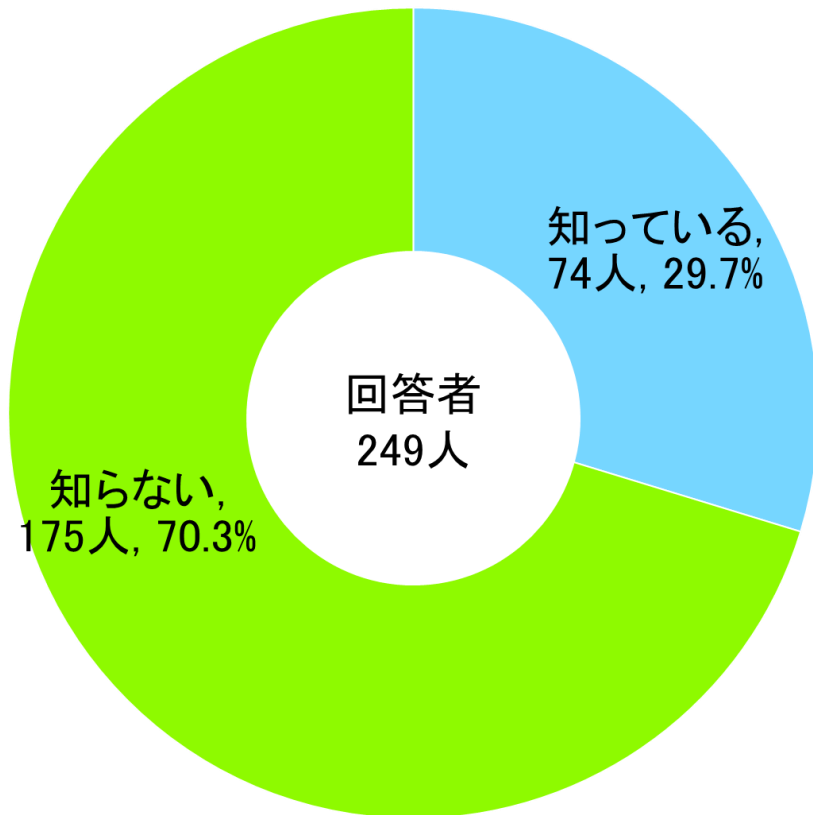
ワクチン接種と社会生活への影響



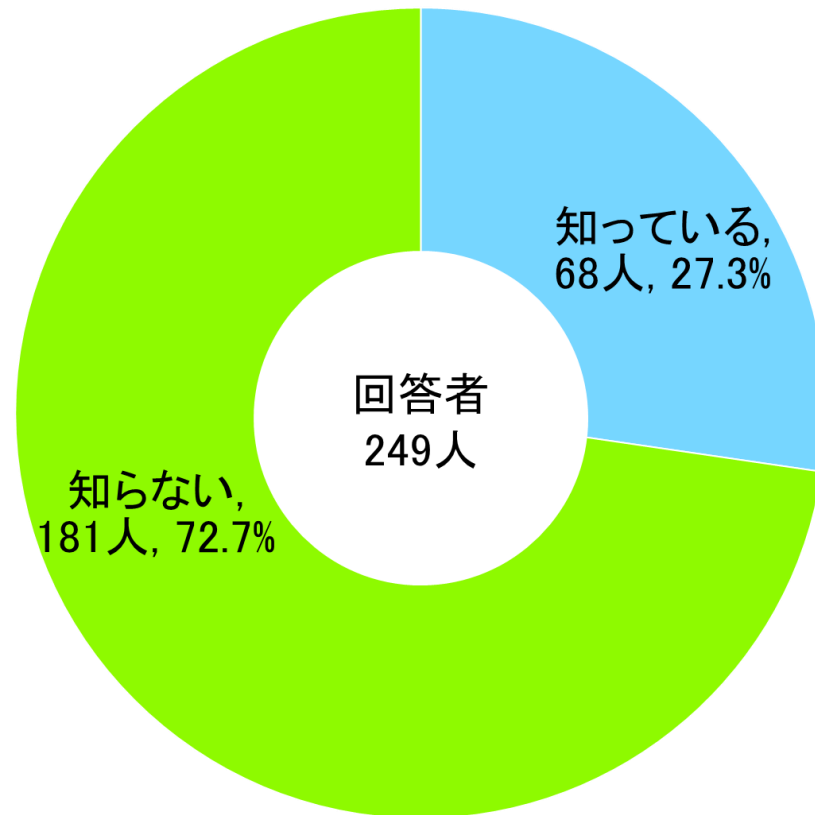
15 コロナ後遺症診療可能診療所等の認知度について

- ・ コロナ後遺症診療可能診療所、コロナ後遺症コールセンターを知っている方は、それぞれ3割程度だった。

コロナ後遺症診療可能診療所



コロナ後遺症コールセンター



16 県民向け調査結果について

- 回答者249人のうちコロナ後遺症があると回答した方は134人で、回答した方の70%は女性だった。
- 年代別では、年代別では40代が38%と最も多く、次いで30代が26%であった。
- 複数の症状を有する方は、全体の75.4%を占めている。症状別では、「倦怠感」が73件と最も多く、次に「咳」が38件、「集中力低下」が35件となっている。また、脱毛、息切れ・呼吸困難など、症状は多岐に渡っている。
- 後遺症を有する134人のうち、社会生活に影響があった方は72人（53%）いた。症状別では、「倦怠感」が48件と一番多く、次に「抑うつ」が25件、「集中力低下」が24件となっている。
- 社会生活に影響があった方72人のうち仕事や学校を辞めたり、休んだりした方は39人（54%）だった。
- 社会生活に影響があった方のうち37%は医療機関を受診しておらず、未受診の理由は、症状の様子を見ていたが66%であり、受診できる医療機関がわからないは14%だった。
- コロナ後遺症診療可能診療所、コロナ後遺症コールセンターの認知度は3割程度だった。

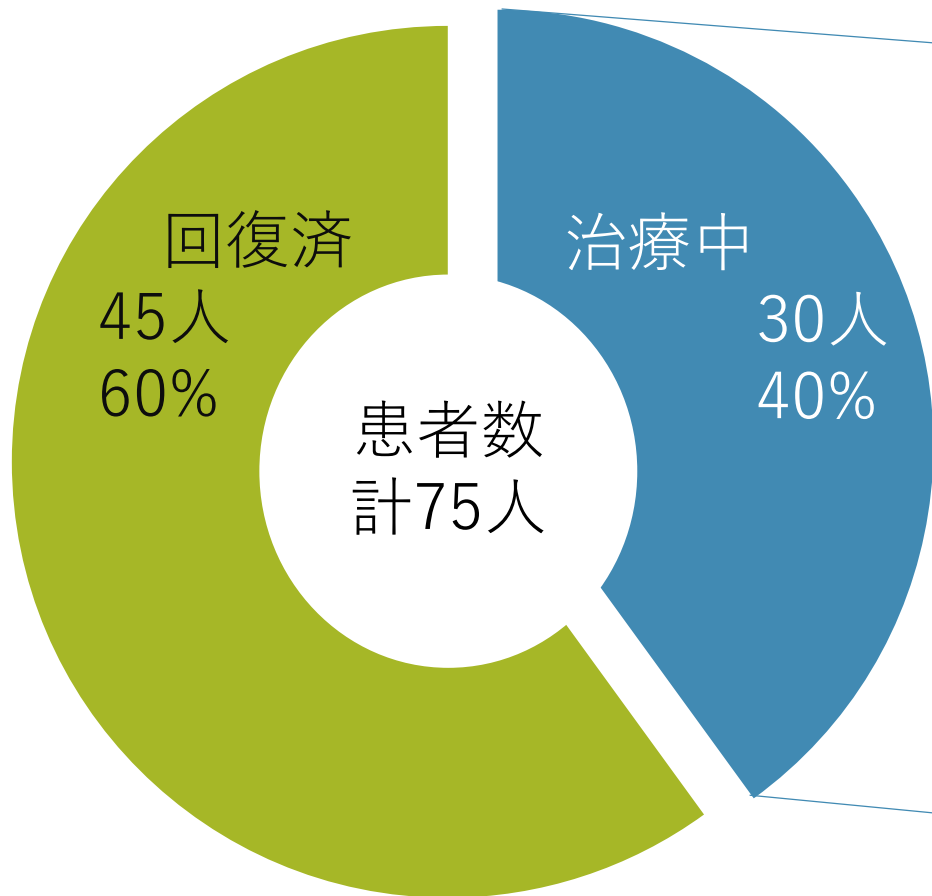
III フォローアップ調査結果

令和4年6月に公表した新型コロナウイルス感染症罹患後症状（後遺症）実態調査において、報告があった患者数75人のうち、治療中30人のその後の経過について、追跡調査を行ったもの。

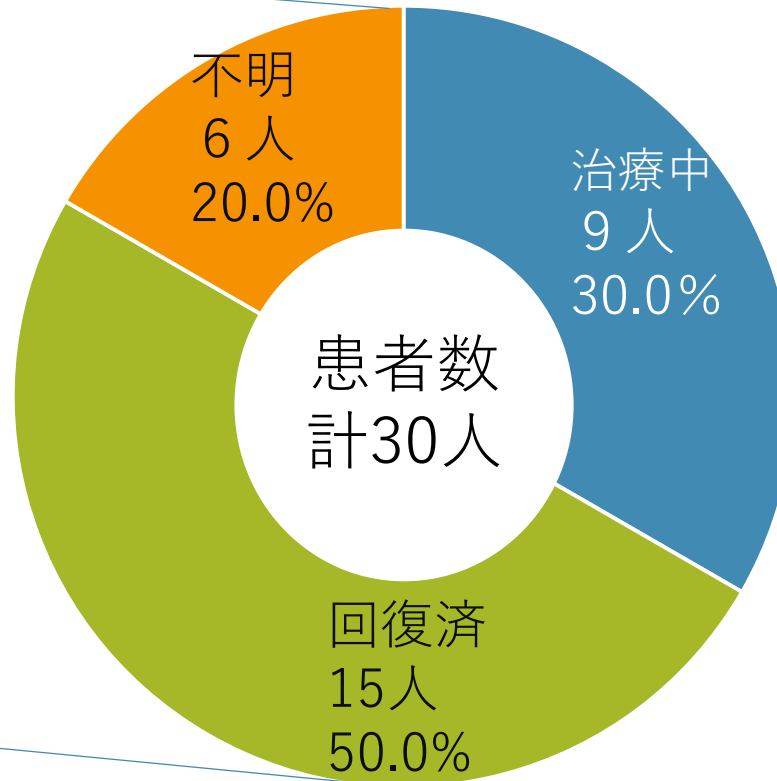
1 治療の継続状況について

- ・ 前回の6月公表調査時点で治療中の患者30人について、フォローアップ調査を行ったところ、治療中が9人、回復済が15人、受診に来ないなどでその後の状況が不明とされた方が6人だった。
- ・ 治療中9人のうち5人は12か月以上治療を継続していた。

6月公表調査時点



12月公表調査時点



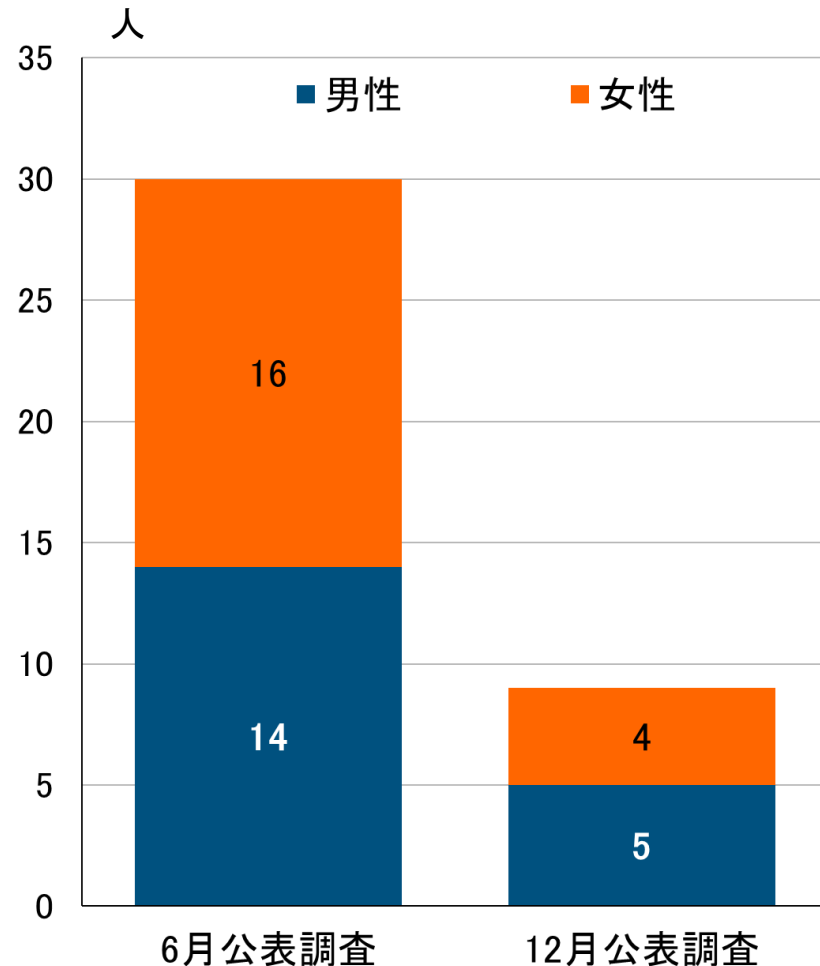
【治療中の継続期間】

期 間	人 数
6～12か月	4人
12か月以上	5人

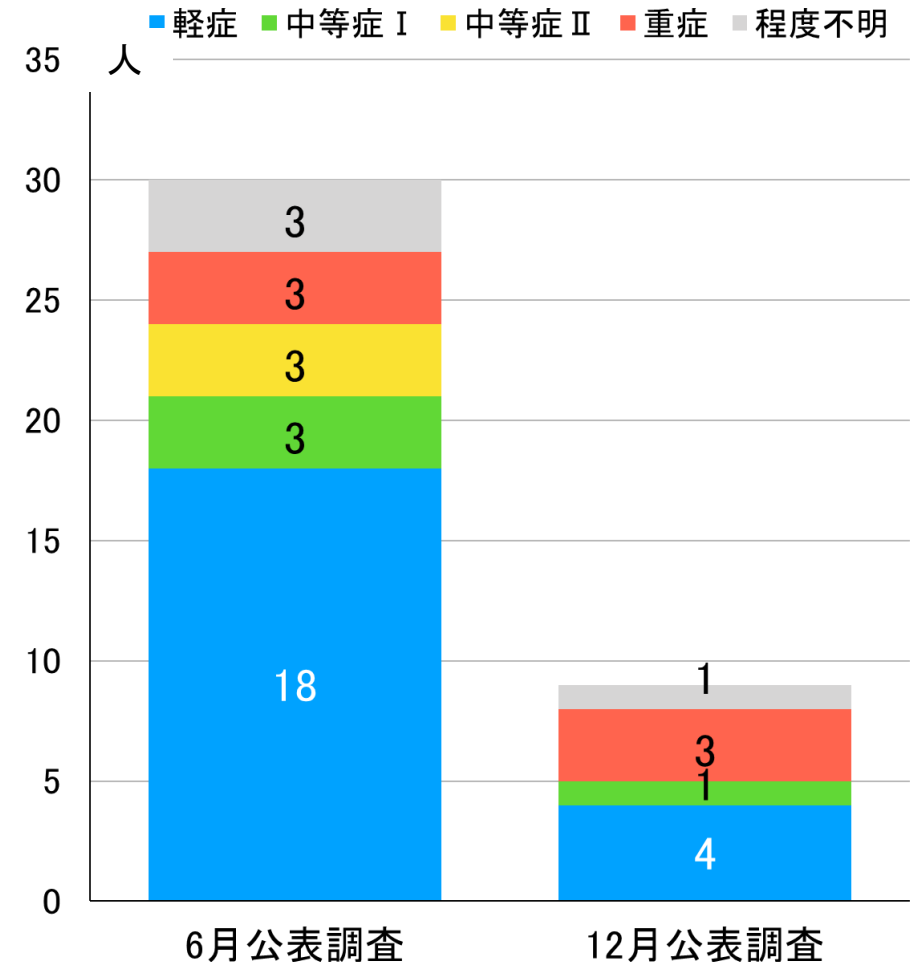
2 治療中の方の性別及び罹患時の症状の程度について

- ・12月公表調査時点で治療中の方の性別は、男性5人、女性4人となっていた。
- ・コロナ罹患時に軽症の方18人のうち14人が回復している。一方でコロナ罹患時に重症だった3名の方は、回復に至っていなかった。

治療中の方の性別

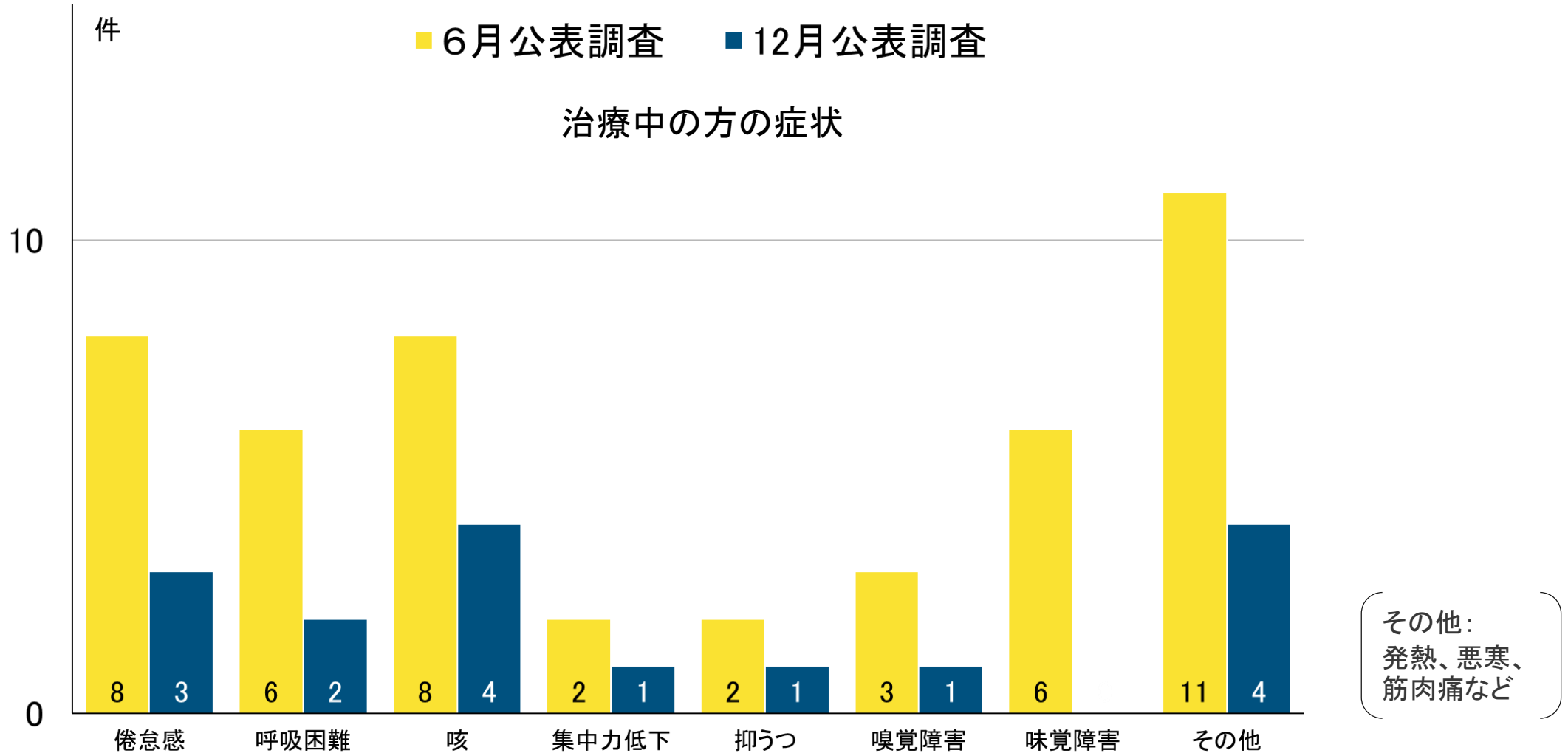


治療中の方の罹患時の症状の程度



3 治療中の方の症状について

- 咳、倦怠感、呼吸困難などに対する治療が継続されているが、味覚障害については、12月公表調査時点では全件回復していた。



4 フォローアップ調査の結果について

- 前回の6月公表調査時点で治療中の患者30人について、フォローアップ調査を行ったところ、治療中が9人、回復済が15人、受診に来ないなどでその後の状況が不明とされた方が6人だった。
- 治療中9人のうち5人は12か月以上治療を継続していた。
- コロナ罹患時に軽症の方18人のうち14人が回復している一方でコロナ罹患時に重症だった3名の方は、回復に至っていなかった。
- 咳、倦怠感、呼吸困難などの治療が継続されているが、味覚障害については、12月公表調査時点では全件回復していた。

IV 今後の対応

- 後遺症による社会生活への影響も踏まえ、医療機関や関係団体等と情報共有を図るとともに、広く県民に周知を図っていく。
- 新型コロナの罹患後症状に苦しむ方が円滑に相談や受診ができるよう、コールセンターや診療可能な診療所の周知を図っていく。
- 後遺症による社会生活への影響も考慮し、県医師会と連携し研修会を開催するなど、医療機関の対応力向上や診療可能な診療所の更なる拡充を図っていく。